

ご 挨拶

北海道土木技術会 会長 三浦 清一



このたび、阿部芳昭会長の跡を引き継ぐことになりました三浦清一です。

1954年に設立され、先輩諸氏の60年を越える長期にわたる献身的なご努力によって、着実に発展して参りました北海道土木技術会の会長に就任したことは大変名誉なことであり、その重責を考えると身の引き締まる思いがいたします。

周知のように本会は、これまで貴重な学術的成果を土木界に提供し、地域社会発展に寄与してきました。しかし、学術情報を交換する場としての重要な役割を担ってきた多くの学会や学術団体は、学術情報を交換する場としての役割以上に、「社会に役立つ団体」として新たな方向を模索することが最近強く求められています。すなわち(1)技術者の資質向上、(2)学術・技術の進歩への貢献に加えて、(3)社会への貢献について、目に見える形での具体的な活動が待ち望まれていると思います。

(3)については、地域密着型の研究活動・社会貢献を促進する活動の活性化がキーポイントになっています。北海道土木技術会は、産・官・学の分野が一体となってその務めを適切に果たしてきたと評価されてきておりますが、次のような点について、“会員の一層の努力”を付与できれば、本会が持続的に発展していくことは間違いないと思われまますし、特に私は、これからの本会を背負う“若手の会員の努力と貢献”が必須であると信じております。

①我が国で多発する大規模な地震災害や降雨災害そして北海道地域特有の積雪寒冷地災害対策など、いわゆる“進化する災害”についての具体的な方策の研究・開発、特に今までの概念に拘束されない斬新な手法の提案、

②老朽化が進む社会基盤施設の長寿命化法・適切な管理法の研究と対策法の開発、

③蓄積してきた技術情報を可能な限り公開し、わかりやすく解説（サービス）する。

特に③については、本会が行ってきた研究活動・技術的成果がより広くわかりやすく広報されれば、国民・道民の安全・安心にかかわる領域に貴重な情報を与えるものと考えています。

土木工学にかかわる基礎技術や応用技術を支えてきた研究者や技術者にとって、基礎科学の真理を探究し、それを正当にレビューした上で、多様化する災害に打ち勝っていく工学技術を構築することが最重要課題であることは、今でも変わらないことであります。しかし社会は、本会のような学術団体や学会がいままで「蓄積してきた技術情報を可能な限り公開し、わかりやすく解説（サービス）する」ということを、これまで以上に求めているということを強く認識する必要があります。

北海道土木技術会を構成する7つの研究委員会相互の連携を緊密に保持しながら、現在の科学技術の“限界と可能性”を社会に積極的に発信することが極めて重要と考えます。このような視点からの会員の皆様の一層のご努力に期待したいと存じます。

ご理解・ご協力を切にお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

本 部 の 活 動 報 告

平成 27 年度の役員会が下記のとおり開催され、平成 26 年度の本部及び各研究委員会の活動報告並びに平成 27 年度の事業計画、予算及び役員などが審議された。

日 時：平成 27 年 6 月 25 日（木）12：30～14：00

会 場：ホテル札幌ガーデンパレス

出席者：会 長	阿 部 芳 昭	(株) 田中組
副 会 長	三 浦 清 一	北海道大学名誉教授
副 会 長	池 田 憲 二	土木研究所寒地土木研究所
鋼道路橋研究委員会委員長	林 川 俊 郎	北海道大学名誉教授
コンクリート研究委員会委員長	上 田 多 門	北海道大学大学院
舗装研究委員会委員長	武 市 靖	北海学園大学
トンネル研究委員会委員長	(欠席)	
道路研究委員会委員長	(欠席)	
土質基礎研究委員会委員長	石 川 達 也	北海道大学大学院
建設マネジメント研究委員会委員長	高 野 伸 栄	北海道大学大学院
幹 事 長	西 本 聡	土木研究所寒地土木研究所
幹 事 (鋼道路橋) (代理)	池 田 準	(株) ドーコン
(コンクリート)	工 藤 浩 史	(株) ドーコン
(舗 装)	木 村 孝 司	土木研究所寒地土木研究所
(ト ン ネ ル) (代理)	荒 木 雅 紀	(株) ドーコン
(道 路)	石 田 樹	土木研究所寒地土木研究所
(土 質 基 礎)	林 憲 裕	土木研究所寒地土木研究所
(建設マネジメント) (代理)	船 山 健 次	(一社) 北海道開発技術センター
会 計 監 査 (建設マネジメント)	安 味 則 次	前田建設工業 (株)
オ ブ ザ ー バ ー	川 村 和 幸	荒井建設 (株)
事 務 局	谷 澤 清 治	
	林 美和子	

1. 平成 26 年度事業報告および決算

(1) 役員会および幹事会の開催

- 1) 役員会：平成 26 年 6 月 30 日(月) ホテル札幌ガーデンパレスで開催

本部および各委員会の平成 25 年度事業報告・決算報告と平成 26 年度事業計画・予算の説明を行い、了承を得た。また、平成 26 年度役員について審議・決定した。さらに、各研究委員会より最近の活動状況等の報告を受けた。

- 2) 幹事会：平成 26 年 6 月 11 日(水) 北海道土木技術会会議室で開催

役員会に提出する平成 25 年度の事業報告および平成 26 年度の事業計画等について打ち合わせを行った。また、平成 26 年度事業のうち、「土木の日」協賛事業、会報の発行について打ち合わせを行った。

(2) 「土木の日」協賛事業

全研究委員会が参加して以下のとおり土木の日パネル展 2014 を実施した。

- ・開催月日 平成 26 年 11 月 16 日(日)～18 日(火)
- ・開催場所 札幌駅前通地下歩行空間 憩いの広場

- ・テーマ 「北の暮らしを支える土木」
 - ・内 容 パネル展示、ビデオ上映、クイズ、リーフレット配布等
 - ・来場者数 2,571 人
- (3) 北海道土木技術会会報
第40号を1,500部発行した。(平成26年8月1日)
- (4) 平成26年度本部決算
「別紙ー1」のとおり。

2. 平成27年度事業計画および予算

- (1) 役員会および幹事会の開催
- (2) 「土木の日」協賛事業の実施
全研究委員会の推薦者による実行委員会を立ち上げ、土木の日パネル展を実施する。
- (3) 会報第41号の発行
- (4) 平成27年度本部予算
「別紙ー2」のとおり。

3. 平成27年度役員

平成27年度役員について審議・決定した。

会 長	三 浦 清 一 (※)	北海道大学名誉教授
副 会 長	川 村 和 幸 (※)	荒井建設 (株)
副 会 長	池 田 憲 二	土木研究所寒地土木研究所
研究委員会委員長 (鋼 道 路 橋)	林 川 俊 郎	北海道大学名誉教授
〃 (コンクリート)	上 田 多 門	北海道大学大学院
〃 (舗 装)	武 市 靖	北海学園大学
〃 (ト ン ネ ル)	藤 井 義 明	北海道大学大学院
〃 (道 路)	萩 原 亨	北海道大学大学院
〃 (土 質 基 礎)	石 川 達 也 (※)	北海道大学大学院
〃 (建設マネジメント)	高 野 伸 栄	北海道大学大学院
幹 事 長	西 本 聡	土木研究所寒地土木研究所
幹 事 (鋼道路橋・幹事長)	加 藤 静 雄	(株) ドーコン
〃 (コンクリート・事務局長)	工 藤 浩 史	(株) ドーコン
〃 (舗 装・幹事長)	木 村 孝 司	土木研究所寒地土木研究所
〃 (トンネル・幹事長)	蟹 江 俊 仁	北海道大学大学院
〃 (道 路・幹事長)	石 田 樹	土木研究所寒地土木研究所
〃 (土質基礎・幹事長)	林 憲 裕 (※)	土木研究所寒地土木研究所
〃 (建設マネジメント・幹事長)	倉 内 公 嘉	北海道開発局
会 計 監 査 (鋼 道 路 橋)	高 橋 政 美 (※)	日立造船(株)
〃 (鋼 道 路 橋)	丸 山 尚 (※)	(株)シビテック(株)

(※)は新任

平成２６年度本部決算報告（平成２６年４月１日～平成２７年３月３１日）

収入の部

（単位：円）

科 目	26年度予算額	26年度決算額	差引増△減額	備 考
前年度繰越	188,324	188,324	0	
事務局賦金	1,307,200	1,307,200	0	各委員会賛助会費の８％
				254,400（鋼道路橋）
				212,800（コンクリート）
				145,600（舗装）
				297,600（トンネル）
				78,400（道路）
				148,800（土質基礎）
				169,600（建設マネジメント）
雑 収 入	150	105	45	預金利息
合 計	1,495,674	1,495,629	45	

支出の部

（単位：円）

科 目	26年度予算額	26年度決算額	差引増△減額	備 考
会 議 費	70,000	50,520	19,480	役員会会場費
印 刷 費	200,000	226,800	△ 26,800	会誌印刷費(1,500部)
通 信 費	5,000	3,690	1,310	送料
備 品 費	210,000	209,160	840	コピー機年間リース料
HP管 理 費	90,000	86,100	3,900	サーバー年間リース料
雑 費	30,000	21,296	8,704	送金手数料他
事務局維持費	500,000	500,000	0	土木350,000 地盤150,000
土木の日行事費	200,000	132,000	68,000	パネル展会場借上費
予 備 費	190,674	0	190,674	
合 計	1,495,674	1,229,566	266,108	266,108-45=266,063(繰越額)

平成26年度北海道土木技術会本部会計について、関係書類の内容を監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成27年6月15日

会計監査

安味 則次



荒木 正芳



【別紙－２】

平成２７年度本部予算(案) (平成２７年４月１日～平成２８年３月３１日)

収入の部

(単位：円)

科 目	26年度決算額	27年度予算額		備 考
前年度繰越	188,324	266,063		
事務局賦金	1,307,200	1,316,000		各委員会賛助会費の８％
				254,400（鋼道路橋）
				227,200（コンクリート）
				143,200（舗装）
				297,600（トンネル）
				76,800（道路）
				147,200（土質基礎）
				169,600（建設マネジメント）
雑 収 入	105	100		預金利息
合 計	1,495,629	1,582,163		

支出の部

(単位：円)

科 目	26年度決算額	27年度予算額		備 考
会 議 費	50,520	70,000		役員会会場
印 刷 費	226,800	230,000		会誌印刷費
通 信 費	3,690	5,000		送料
備 品 費	209,160	210,000		リース料(コピー機)
ＨＰ管 理 費	86,100	90,000		サーバーリース料
雑 費	21,296	30,000		送金手数料他
事務局維持費	500,000	500,000		土木350,000 地盤150,000
土木の日行事費	132,000	200,000		パネル展会場借上費他
予 備 費	0	247,163		
合 計	1,229,566	1,582,163		

各 研 究 委 員 会 の 活 動 報 告

I. 鋼道路橋研究委員会（昭和 40 年 2 月設立 会員 297 名）

（委員長 林川俊郎、副委員長 加納 民雄、渡辺 亮、幹事長 加藤静雄、事務局長 池田 準）

1. 平成 26 年度事業報告

1-1 情報小委員会（小委員長 白石 悟）

1) ホームページの運営 鋼道路橋研究委員会ホームページ

①ホームページの更新 各小委員会、事務局等の活動報告等の定期更新

②講演会資料、指針改定版の案内等の掲載

各種講演会の講演資料の掲載や

「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針（平成 24 年 1 月）」の改定版を掲載

2) 幹事会の実施

第 1 回 幹事会（H26. 6. 10 （株）ドーコン会議室 参加者 3 名）

・今年度の活動内容について ・ホームページの運営について

・50 周年記念事業 親子現場見学会について

第 2 回 幹事会（H27. 4. 10 パシフィックコンサルタンツ（株）会議室 参加者 3 名）

・ホームページの更新について

3) 50 周年記念事業として、「親子現場見学会」において、講習・講演小委員会、複合構造小委員会とともに実施協力を行った。

1-2 設計仕様小委員会（小委員長 村上 睦）

1) 50 周年記念事業において「先輩技術者による座談会」を開催し、50 周年記念誌に掲載した。

1-3 歴史・写真集小委員会（小委員長 甲斐 明）

1) 平成 25 年度発注橋梁の実績調査を行った。

2) 平成 18 年度～平成 24 年度の発注橋梁実績取りまとめ。

3) 50 周年記念事業において「土木の日パネル展」を振動小委員会とともに実施協力を行いパネルを新規・リニューアルした。

4) 小委員会の実施

第 1 回 平成 27 年 4 月 24 日（金） K K R ホテル札幌 15：00～17：00

発注橋梁の実績調査及び取りまとめ。（10 名参加）

1-4 講習・講演小委員会（小委員長 室橋 秀生）

1) 小委員会

第 1 回 平成 26 年 5 月 12 日（月） 第 36 桂和ビル 会議室 16:30 ～ 17:30

議題：平成 26 年度活動計画 （13 名参加）

第 2 回 平成 26 年 6 月 16 日（月） 北の宗右衛門ゆうや 17:30 ～ 18:30

議題：50 周年記念事業 親子見学会について・祝賀会の内容について （14 名参加）

第 3 回 平成 26 年 9 月 8 日（月） (株)ドーコン 会議室 16:00 ～ 18:00

議題：50 周年記念事業 祝賀会について （14 名参加）

2) 50 周年記念事業 親子現場見学会

情報小委員会、複合構造小委員会との協働実施

日時：平成 26 年 7 月 30 日（水） 9:00～15:30 出席者：61 名（子供 31 名、大人 30 名）

見学コース：亜鉛めっき工場（株双葉工業社）・札幌大橋上部工事（IHI・川田工業 JV）

3) 講演会「道路の長期保全及び更新について」

日時：平成 26 年 6 月 16 日（金）14:00～17:00 場所：札幌エルプラザ3F ホール 出席者：170 名

演題：(1) 「道路インフラの老朽化を巡る動向」

国土交通省北海道開発局 建設部道路維持課 道路保全対策官 岡田 務氏

(2) 「道路の長期保全及び更新について」

横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター特任教授
内閣府総合科学技術会議 SIP 政策参与
東京大学名誉教授

藤野 陽三氏

4) 50 周年記念事業 記念式典・祝賀会

日時：平成 26 年 10 月 10 日(金) 場所：ホテル札幌ガーデンパレス

出席者：記念式典 110 名、祝賀会 90 名

5) 橋梁技術発表会及び講演会

日時：平成 26 年 11 月 14 日(金) 13:00～17:00 場所：ホテル札幌ガーデンパレス 2F

出席者：180 名

演題：(1) 橋建協報告

(一社) 日本橋梁建設協会 広報委員会

(2) 技術発表－1【製作技術の変遷と今後の展望】

(一社) 日本橋梁建設協会 製作小委員会 製作部会 板橋 建一氏

(3) 技術発表－2【鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究】

(一社) 日本橋梁建設協会 床版小委員会 床版技術部会 皆田 龍一氏

(4) 技術発表－3【単径間ダブルデッキトラスの送出しについて】

(一社) 日本橋梁建設協会 架設小委員会 架設部会 横田 慎二氏

(5) 特別講演【メンテナンス元年】その後－これからの日本に必要なこと－

(公財) 東京都道路整備保全公社 道路アセットマネジメント推進室長

(一財) 首都高速道路技術センター 上席研究員 高木 千太郎氏

1－5 振動小委員会(小委員長 宮森 保紀)

1) 第 1 回小委員会

北見工業大学客員教授の杵本正信先生から話題提供いただき、下記報告会を開催した。

日時：平成 26 年 9 月 4 日(木) 場所：北海道大学 工学部 A101 室 参加者：8 名

1. 話題提供：最近のモニタリング技術の動向について

北見工業大学 客員教授 杵本 正信氏

2) 第 2 回小委員会

実橋のダンプトラックを用いた載荷試験の現地見学を実施し、静的載荷試験の状況や動的の載荷試験状況を確認した。

日時：平成 26 年 10 月 2 日(木) 場所：一般国道 237 号 花園橋 参加者：3 名

3) 土木の日パネル展への協力

50 周年記念事業としての「土木の日パネル展」の実行委員会への参加、パネル製作等パネル展一連の運営に関して、歴史・写真集小委員会とともに実施協力を行った。

日時：平成 26 年 11 月 16 日(日)～18 日(火)

場所：駅前通地下歩行空間 憩いの空間(北 2～3 条付近)

1－6 技術調査小委員会(小委員長 西 弘明)

1) 第 1 回幹事会(平成 27 年 5 月 21 日、寒地土研にて開催)

(1) 小委員会の活動経緯について

(2) 今後の活動内容について

2) 50 周年記念事業への協力

50 周年記念事業として平成 26 年 10 月 3 日、4 日の 2 日間にわたり開催された「現場視察会」について、維持管理小委員会とともに実施協力を行った。

1－7 維持管理小委員会(小委員長 榊原 仁志)

1) 橋梁点検が義務化に向け、市町村の維持管理に関する現状について情報収集を行った。

2) 50 周年記念事業として開催された「現場視察会」について、技術調査小委員会とともに実施協力を行った。

1－8 複合構造小委員会（小委員長 松本 高志）

1) 第1回小委員会

複合構造小委員会（講習会）を開催

日時：平成26年11月26日（水） 場所：寒地土木研究所 会議室 参加者：16名

演題：(1) 話題提供：日本と米国における取替え鋼床版事例の調査報告（30分）

（一社）日本橋梁建設協会 技術委員会 鋼床版部会 工藤 祐琢氏

(2) 話題提供：繊維補強セメント系複合材料の種類と特性について（30分）

北海道大学大学院 松本 高志氏

(3) 話題提供：長寿命化橋梁のすすめ（30分）

寒地土木研究所 寒地構造チーム 岡田 慎哉氏

2) 50周年記念事業 親子現場見学会

（情報小委員会、講習講演小委員会との合同実施）

1－9 道路橋示方書対応部会（部会長 松本 高志）

昨年度に引き続き「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針（H24.1）」に対し、
H24道路橋示方書改訂事項について検討作業を行い、改定版を公開した。

2年間の活動期間を終了し、当部会を解散する。

1) 第5回部会 平成26年7月7日（月）9:30～12:00 北海道大学 出席者：12名

内容：改訂状況報告と討議、スケジュール確認

2) 第6回部会 平成26年8月4日（月）9:30～12:00 寒地土木研究所 出席者：10名

内容：公開資料の構成方法、公開資料の検証、スケジュール確認

3) 慰労会（部会解散会）平成26年9月29日（月） 北海料理古艦帆来～コロポックル～

出席者：16名

4) 改定版の公開 平成26年10月22日（水） 公開資料：改定版、Q&A集、正誤表

公開方法：HP上で公開（<http://www.koudourokyo.net/news/403/>）

1－10 「土木の日」分科会（分科会長 林川 俊郎）

開催日時：平成26年11月16日（日）・17日（月）・18日（火）

場所：駅前通地下歩行空間 憩いの空間

タイトル：北の暮らしを支える土木技術 … 土木の日パネル展2014

主催：北海道土木技術会 鋼道路橋・コンクリート・舗装・トンネル・道路・土質基礎・建設マネジメント7研究委員会

総入場者数：16日:708名 17日:951名 18日:912名 計 2,571名(2013年:1297名/2日間)

1－11 事務局（事務局長 池田 準）

1) 平成26年度総会を開催した。

日時：平成26年6月4日（水） 場所：ホテルポールスター札幌

特別講演 『地方公共団体の長寿命化修繕計画の支援』

特定非営利活動法人 茨城ふるりの橋を守る会 理事 岡本 晃氏

2) 常任委員会（平成27年5月27日）を開催した。

3) 50周年記念事業を主催した。

4) 橋梁技術発表会及び講習会を（一社）日本橋梁建設協会と共催した。（詳細は講習講演小委員会参照）

5) その他

・総会議事録の送付及び決議事項を報告した。 ・年会費を請求した。

・新年度委員の委嘱事務を行った。 ・書籍の販売・配布を行った。

・国内研修の支援を行った。

平成27年3月2日～3月3日（札幌） ROADERS WorkShop in Sapporo に参加

北海道大学 大学院 特任教授 林川 俊郎氏

北海道大学 大学院 准教授 松本 高志氏

北海道大学 大学院 助教 何 興文氏

- ・鋼橋セミナーを支援した。(日本橋梁建設協会主催) テーマ:「鋼橋へのアプローチ」
①北海学園大 ②函館高専 ③北見工大 ④旭川工業高校

2. 平成 27 年度事業計画

2-1 情報小委員会(小委員長 白石 悟)

- 1) 鋼道路橋研究委員会のホームページの運営を行う。
 - ・定期的な更新に加え写真集の追加更新、講演会資料の掲載等を検討
- 2) 鋼橋に関する情報収集を行い、検討会を開催する。
 - ・情報提供および検討会開催の企画

2-2 設計仕様小委員会(小委員長 加納 民雄)

- 1) 性能規定型設計への移行を踏まえ、「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針(平成 23 年 1 月)」の今後のあり方について検討する。
- 2) 鋼道路橋の基準改訂に関する最近の話題と資料収集を行う。

2-3 歴史・写真集小委員会(小委員長 甲斐 明)

- 1) 平成 26 年度の発注橋梁の実績調査を行う。
- 2) 平成 18 年度～平成 25 年度の発注橋梁実績取りまとめ。
- 3) 写真集第 12 集発刊に向けての写真収集。(平成 28 年度発刊予定)

2-4 講習・講演小委員会(小委員長 室橋 秀生)

- 1) 講習会、講演会、現場見学会等を合計 2 回程度、会員の要望を反映して行う。

2-5 振動小委員会(小委員長 宮森 保紀)

- 1) 鋼道路橋の橋梁振動問題に関する最近の情報交換と資料収集を行う。
- 2) 鋼道路橋の耐震設計ならびに耐震性能について意見交換を行う。
- 3) これらに関する勉強会・講演会を開催する。

2-6 技術調査小委員会(小委員長 西 弘明)

- 1) 鋼道路橋に関する各種基準・規定や新技術について調査検討を行う。
- 2) 鋼道路橋の現状および新たな技術に関する勉強会を開催する。

2-7 維持管理小委員会(小委員長 榊原 仁志)

- 1) 維持管理(特に長寿命化技術)に関する情報交換と資料収集を行う。
- 2) 維持管理(特に長寿命化技術)に対する視野を広げるため勉強会を開催する。
- 3) 診断技術に関する情報交換と資料収集を行う。

2-8 複合構造小委員会(小委員長 松本 高志)

- 1) 複合構造に関する最近の情報交換と事例収集を行う。
- 2) 複合構造の設計に関する勉強会を開催する。
- 3) 複合構造の維持管理・補修に関する勉強会を開催する。

2-9 「土木の日」分科会(分科会長 林川 俊郎)

北海道土木技術会として開催する「土木の日」に参加する。

2-10 事務局(事務局長 池田 準)

- 1) 出納事務を行う。
- 2) 書籍の販売を行う。
- 3) 常任委員会、総会の開催準備を行う。
- 4) その他
 - ・北海道土木技術会幹事会、役員会を支援する。
 - ・鋼橋技術研究会、九州橋梁構造工学会との交流を図る。
 - ・海外研修の支援事務を行う。
 - ・研究支援を行う。
 - ・鋼橋セミナーの開催を行う。

Ⅱ. コンクリート研究委員会（昭和 29 年 12 月設立 会員 266 名）

（委員長 上田多門、副委員長 熊谷政行・佐藤彰紀・花田真吉、事務局長 工藤浩史）

1. 平成 26 年度事業報告

【運営に関する常設委員会】

1-1 企画小委員会（委員長 上田 多門）

1) 委員会活動について

役員の改選および名簿見直し

1-2 技術情報小委員会（小委員長 京田 隆一）

60 周年記念現場見学会、記念講演会・懇親会を開催した。また、土木の日協賛、北海道土木技術会主催「北の暮らしを支える土木 パネル展」に、他の研究委員会と共同で、平成 26 年 11 月 16 日（日）～11 月 18 日（火）に駅前通地下歩行空間憩いの広場においてパネル展示を行いました。

展示パネル ・委員会代表パネル（W1500×H900）1 枚

・コンクリート研究委員会 60 年の歩みパネル（W1500×H900）1 枚

・個別展示パネル（W550×H850）6 枚

【維持管理（新規作成） 3 枚 既存パネル 3 枚】



コンクリート研究委員会 60年の歩み

60th anniversary

年	委員長	委員会活動	出版物・トピックス等
1954 ▼ 1974	横道 英雄 氏	・富貴研究委員会（コンクリート研究委員会の前身）発足（1954年） ・道内コンクリート構造物の現地調査 ・各種構造物の防止対策および補修工法の研究 ・PC研究委員会発足（1956年） ・貴州研究委員会発足（1962年） ・PC研究委員会と貴州研究委員会が統合され、コンクリート研究委員会として改称される。（1965年） ・コンクリート構、コンクリート舗装、重中コンクリート小委員会発足（1965年）	・我が国最初の「PCグラウト指針」発刊（1957年） ・「ねじり律縮を用いた鉄筋コンクリートの設計および施工指針（第1版）」発刊（1962年） ・「PCスノーシェルター標準設計図面集」発刊（1965年） ・上野川橋完成（世界初のPCラーメン桁橋）（1966年） ・写真集「北海道のコンクリート構造物」第1巻、発刊（1974年）
1975 ▼ 1991	藤田 嘉夫 氏	・講演会、見学会の実施 ・土木の日協賛（土木の日）の実施 ・北海道のコンクリート構造物委員会発足（1986年） ・防災施設研究小委員会発足（1987年） ・設計仕様小委員会発足（1990年） ・技術小委員会発足（1991年）	・写真集「北海道のコンクリート構造物」第2巻、発刊（1987年） ・「PCスノーシェルター標準設計図面集」第2巻、発刊（1989年） ・「PCスノーシェルター標準設計図面集」第3巻、発刊（1991年） ・「北海道の土木工事における重中コンクリートの施工実務報告書」発刊（1991年）
1992 ▼ 1997	角田 興史雄 氏	・講演会、見学会の実施 ・コンクリート構造物のひび割れ事例の調査・研究および橋梁下部工の耐震補強の検討 ・「土木の日（11月18日）」協賛事業として「パネル展・講演会」などの実施（1995年以降） ・コンクリート研究委員会創立40周年記念海外研修実施（「イギリス・ベルギー・フランス」）（1996年） ・企画、技術情報、多自然型コンクリート小委員会発足（1997年）	・「コンクリート構造物の耐用年数予測評価のための調査報告書」発刊（1993年） ・写真集「北海道のコンクリート構造物」第3巻、発刊（1993年） ・北海道におけるコンクリート構造物および橋梁下部構造物の設計の手引き、発刊（1995年）
1998 ▼ 2003	佐伯 昇 氏	・講演会、見学会の実施 ・土木の日協賛（土木の日）の実施 ・国際交流、総合的産業調査検討、ショールームコンクリート小委員会発足（1998年） ・コンクリート先端技術教育、コンクリート維持管理小委員会発足（2000年） ・土木学会コンクリート委員会第3委員会活動として、「北海道コンクリート構造物研究小委員会」および「岩盤補強技術活用研究会コンクリート研究委員会」発足（2000年） ・インターネット小委員会発足（2002年）	・「北海道における道路防雪施設設計・施工マニュアル」発刊（1999年） ・写真集「北海道のコンクリート構造物」第4巻、発刊（1999年） ・「PC道路防雪構造物マニュアル」発刊（2001年） ・北海道におけるコンクリート構造物および橋梁下部構造物の設計の手引き、改定（2002年） ・土木分野におけるゼロエミッションに向けて、報告書発刊（2002年）
2004 ▼ 2007	大沼 博志 氏	・講演会、見学会の実施 ・土木の日協賛（土木の日）の実施 ・「豊かな沿岸を造る生態系コンクリート・シンポジウム開催（2006年） ・橋梁マネジメントセミナーへ講師派遣 ・沿岸の環境保全コンクリート・研究発表会開催（2007年） ・「北海道におけるコンクリート構造物の歴史、研究発表会開催（2007年）	・「北海道におけるコンクリート構造物の維持管理の手引き（第2版）」発刊（2006年） ・北海道におけるコンクリート構造物の歴史、発刊（2007年） ・写真集「北海道のコンクリート構造物」第5巻、発刊（2007年）
2008 ▼ 2011	鮎田 耕一 氏	・講演会、見学会の実施 ・土木の日協賛（土木の日）の実施 ・橋梁マネジメントセミナーへ講師派遣 ・第2回「ブレスト・コンクリート」の発展に関するシンポジウムに技術展示（2011年） ・沿岸における環境保全コンクリート研究小委員会報告書発表会開催（2011年）	・都市型商業利用CLSM小委員会研究発表（2011年） ・沿岸における環境保全コンクリート研究小委員会報告書発表会（2011年）
2012	上田 多門 氏	・講演会、見学会の実施 ・土木の日協賛（土木の日）の実施 ・「北海道におけるコンクリート構造物の性能安全技術指針」講演会開催（2013年） ・「コンクリート研究委員会60周年記念現場見学会、講演会実施（2014年） ・劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究委員会講演会開催（2014年）	・「北海道におけるコンクリート構造物の性能安全技術指針」発刊（2013年） ・劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究委員会年報報告書作成（2014年） ・写真集「北海道のコンクリート構造物」第6巻、発刊予定（2015年）

60 年の歩みパネル

1－3 国際交流奨学小委員会（小委員長 井上 雅弘）

平成 26 年度は国際交流 A 2 件の助成を行った。

1－4 コンクリート先端技術教育小委員会（小委員長 工藤 浩史）

道内の土木工学系の学生に PC 技術あるいは PC の先端技術についてセミナーを開催。

- ・苫小牧高専 （廣川一巳准教授、6 月 30 日、7 月 7 日 37 名参加）
- ・北海道大学 （佐藤靖彦准教授、11 月 12 日、1 月 14 日 36, 59 名参加）
- ・北海道科学大学（今野克幸教授、12 月 9 日、12 月 16 日 11 名参加）
- ・室蘭工業大学（菅田紀之准教授、12 月 1 日 30 名参加）
- ・函館高専 （澤村秀治准教授、12 月 13 日 45 名参加）
- ・北海学園大学（高橋義裕教授、12 月 10 日 27 名参加）
- ・北見工業大学（井上真澄准教授、2 月 6 日 66 名参加）

1－5 インターネット小委員会（小委員長 ヘンリー マイケル ワード）

コンクリート研究委員会の活動、行事などの情報をタイムリーに発信。

HP の維持管理及び内容更新。

1－6 技術支援小委員会（小委員長 工藤 浩史）

平成 26 年度は、支援要請なし。

【コンクリート技術に関する常設委員会】

1－7 コンクリート橋小委員会（小委員長 村上 睦）

写真集「北海道のコンクリート橋第 6 集」の発刊に向けた活動。

1－8 設計仕様小委員会（小委員長 村上 睦）

平成 24 年の道路橋示方書改定により、今後ますます重要となる維持管理、点検性の向上を達成する橋梁が求められるなど、新たな要求事項に対応する構造細目や設計上の配慮などが必要と考え、純粋な技術的議論と情報交換を目的に 2 回の WG を開催。

1－9 コンクリート防災施設小委員会（小委員長 甲斐 明）

休止中。

1－10 コンクリート維持管理小委員会（小委員長 岡田 務）

コンクリート維持管理小委員会は、北海道内のコンクリート構造物の効率的な維持管理と長寿命化を図ることを目的として、地域的な特性を考慮した点検・診断および補修・補強に関する技術開発、これらに従事する技術者の養成や技術力の向上を目指した活動を行っている。

平成 25 年 12 月には「北海道におけるコンクリート構造物の性能保全技術指針」を発刊して、現在は同指針の普及や啓蒙、および次期改訂に向けた活動を進めている。

【コンクリート技術に関する期間限定委員会】

1－11 劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究小委員会（小委員長 佐藤 靖彦）

本委員会は、鉄筋コンクリートの本質的な挙動を知るとともに、材料劣化がコンクリート構造物の構造性能に及ぼす影響について、その評価を可能とする技術や知識を習得することを目的としている。

平成 19 年度からの約 2 年間は、「材料劣化を考慮した構造性能評価に関する研究会」として材料劣化が生じたコンクリート構造物の性能評価技術の現状を理解し、また構造解析技術を利用するために必要な知識を習得することを目的として活動を行ってきた。当初の目的を概ね達成し、委員会としての活動を行うための下地が整ったものと判断して、平成 22 年度より委員会として活動を行っている。

（1）委員会報告書の公開

報告書のタイトルを「凍害により材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能評価に向け

て」とし、本小委員会ホームページから無償でダウンロード（PDF）できるようにした。

報告書目次

第1章：活動の背景と目的

第2章：材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能に関する現状技術

第3章：非線形有限要素法による RC 部材の数値解析的検討

第4章：凍害で劣化したコンクリートおよび構造物の構造性能評価に関する現状

第5章：今後の取り組みについて

付 録：文献調査シート，投稿論文集，委員会議事録集

（2）活動報告会の開催

・2013 年制定土木学会コンクリート標準示方書〔維持管理編〕の発刊に伴う講習会と合同で開催した。

北見会場：平成 26 年 6 月 17 日（火） 15:30～17:00

会場は北見工業大学，聴講者は 40 名程度

函館会場：平成 26 年 6 月 24 日（火） 15:30～17:00

会場は函館工業高等専門学校，聴講者は 35 名程度

※活動報告会で配布した資料も小委員会の HP からダウンロード可能

1－1 2 超高強度繊維補強コンクリートに関する小委員会（小委員長 上田 多門）

北海道固有の条件下において、「コスト低減」、「耐久性向上」を実現可能な材料の一つとして超高強度繊維補強コンクリートを取り上げ、平成 2 3 年度には設計仕様小委員会のワーキンググループとして情報収集、適用性の検討等を行った。平成 2 4 年度は小委員会として橋梁の試設計および U F C の利点を見いだせる適用構造物の探求を行い、平成 2 5 年度はさらに深く多面的に実施した上で、成果物をまとめるべく活動を継続した。平成 2 6 年度は集大成の年として報告書作成業務を中心に進めていった。

（1）成果報告

平成 26 年 11 月 26 日「コンクリート研究委員会 60 周年記念講演会」において、最終成果の報告を行った。なお、報告書はホームページで公開中。

1－1 3 北海道における構造設計研究小委員会（小委員長 渡辺 忠朋）

全体委員会 3 回、幹事会を 1 回開催した。

1－1 4 産業廃棄物起源のコンクリート用混和材に関する積雪寒冷地利用技術研究小委員会（小委員長 杉山 隆文）

全体委員会 2 回、幹事会を 2 回開催した。

2. 平成 27 年度事業計画

1 運営に関する委員会（常設）	
企画小委員会	・委員会活動活性化に向けた企画 ・講演会、見学会、土木の日協賛事業の企画
技術情報小委員会	・講演会、見学会（一般、学生）、土木の日協賛事業の運営
国際交流奨学小委員会	・国際交流に係わる「学生・国際会議助成」の募集 ・国際交流小委員会活動の活性化
コンクリート先端技術教育小委員会	・PC セミナーの実施（道内 5 大学、2 高専）
インターネット小委員会	・HP の維持管理、更新
技術支援小委員会	・北海道開発局への支援
2 コンクリート技術に関する委員会（常設）	
コンクリート橋小委員会	・「北海道のコンクリート橋」第 7 集の準備
設計仕様小委員会	・H24 道示を見据えた WG 活動
コンクリート防災施設小委員会	・当面、活動休止
コンクリート維持管理小委員会	・橋梁マネジメントセミナー講師 ・維持管理の手引き発刊
3 コンクリート技術に関する委員会（期間限定）	
劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究小委員会	・研究会の開催 ・中間報告書作成・公開
北海道における構造設計研究小委員会	・委員会開催
産業副産物起源のコンクリート用混和材に関する積雪寒冷地利用技術研究小委員会	・事例集集 ・委員会開催

Ⅲ. 舗装研究委員会（昭和 55 年 5 月設立、委員数 123 名）

（委員長 武市靖、副委員長 亀山修一、種綿順一、幹事長 木村孝司、事務局長 村澤邦光）

1. 平成 26 年度事業報告

1－1 会議

1) 第 34 回通常総会（出席数 61 名）

日時：平成 26 年 6 月 2 日（月）15:30～

場所：ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

議題：・平成 25 年度 事業報告
・平成 25 年度 会計報告及び監査報告
・平成 26 年度 事業計画（案）及び収支予算（案）

2) 講演会及び活動報告会（出席数 61 名）

日時：平成 26 年 6 月 2 日（月）16:05～

場所：ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

講演及び活動報告

- （1）「舗装についての最近の話題」技術検討委員会からの報告
- （2）各小委員会 活動報告

1－2 幹事会

1) 第 1 回 平成 26 年 5 月 12 日（月）出席者 17 名

- （1）役員の変更について
- （2）平成 25 年度 各小委員会の活動報告等について
- （3）第 34 回通常総会等について
- （4）その他

2) 第 2 回 平成 26 年 12 月 25 日（木）出席者 16 名

- （1）平成 26 年度 各小委員会の活動状況報告について
- （2）その他

3) 第 3 回 平成 27 年 3 月 26 日（木）出席者 16 名

- （1）平成 26 年度 各小委員会の活動状況報告について
- （2）第 35 回通常総会の日程について
- （3）その他

1－3 小委員会活動

1) 技術基準小委員会（委員長 木村孝司、副委員長 山下 宏治、斉藤 昌之）

- （1）委員会の開催なし

2) 講演講習小委員会（委員長 長屋弘司、副委員長 亀山修一、後藤明雄）

(1) 特別講演会

日 時：平成 26 年 9 月 17 日（水） 13：20～16：40

場 所：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 5F はまなす

プログラム：◇第 1 講 「アスファルト混合物の剥離対策」

（北海道科学大学 名誉教授 笠原 篤氏）

◇第 2 講 「日本の国土と道路を考える」

（一般財団法人 経済調査会 理事長 菊川 滋氏）

参 加：91 名

(2) 土木の日パネル展への参加

創立 60 周年「土木の日パネル展 2014」

日 時：平成 26 年 11 月 16 日（日）～ 18 日（火）（3 日間）10：00～18：00

場 所：駅前地下歩行空間 憩いの空間（北 2～3 条近辺）

観覧者数：	11 月 16 日（日）	入場者	708 名	クイズ参加者	405 名
	11 月 17 日（月）	〃	951 名	〃	506 名
	11 月 18 日（火）	〃	912 名	〃	475 名
	3 日間 合計	〃	2,571 名	〃	1,386 名

3) 技術史料収集小委員会（委員長 佐々木博志、副委員長 佐々木寿彦、本田 俊）

(1) 史料収集整理活動

①電子資料管理プログラム「SIRYO2010」のデータベースを、2014 年版に更新

②新聞雑誌などから舗装に関する各種史資料を収集し、電子データ化

(2) 木塊舗装に関するパネルの作製

①木塊舗装に関して、木塊保全工事と北 3 条広場についてのパネルを作製

(3) 土木の日パネル展

①「土木の日パネル展」に木塊とパネルを展示

4) 軽交通舗装小委員会（委員長 渡辺 亮 副委員長 佐藤 智昭 佐藤 巖）

(1) 軽交通舗装の補修指針を改定するため、印刷原稿を作成

(2) 委員会開催日

第 1 回 平成 26 年 7 月 18 日（金）

第 2 回 平成 26 年 10 月 15 日（木）

第 3 回 平成 27 年 3 月 10 日（火）

第 4 回 平成 27 年 3 月 24 日（火）

5) 舗装マネジメントシステム小委員会（委員長 川村彰、副委員長 種綿順一、丸山記美雄）

(1) 釧路市役所にて、平坦性モニタリング調査結果の報告

日 時：平成 26 年 7 月 22 日（火）14:00～16:00

(2) 委員会開催日

第 1 回 平成 26 年 8 月 27 日（木）

6) コンクリート舗装小委員会（委員長 亀山修一、副委員長 松久浩、種綿順一）

(1) 現地見学会の開催

早期交通解放型コンクリート舗装（1day Pave）の施工

日 時：平成 26 年 9 月 25 日（木）

場 所：太平洋セメント（株）苫小牧サービスステーション構内

参 加：約 180 名

2. 平成 27 年度事業計画

- 1) 技術基準小委員会（委員長 木村孝司、副委員長 山下宏治、斎藤昌之）
 - (1) 舗装の技術基準に関する課題の把握及び技術的検討
 - (2) 技術基準の最近の動向に関する情報交換及び会員への提供
- 2) 講演講習小委員会（委員長 長屋弘司、副委員長 亀山修一、後藤明雄）
 - (1) 各種舗装関連講演会等の共催参加、支援
 - (2) 各種現場見学会の実施
 - (3) 土木の日パネル展 2015 への参加
 - (4) 関連書籍の販売促進
- 3) 技術史料収集小委員会（委員長 佐々木博志、副委員長 佐々木寿彦、本田 俊）
 - (1) 電子資料管理プログラム「SIRYO2010」のデータベースの管理と更新
 - (2) 各種史資料の電子版作成についての実施
 - (3) 北海道の舗装に関する広報資料の作製を検討
- 4) 軽交通舗装小委員会（委員長 渡辺 亮、副委員長 佐藤 徹、寺崎俊彦）
 - (1) [軽交通舗装の施行と補修指針] の改訂版を印刷発刊
 - (2) 「軽交通舗装の施工と補修指針」の普及活動
- 5) 舗装マネジメントシステム小委員会（委員長 川村彰、副委員長 種綿順一、丸山記美雄）
 - (1) IRI 調査データの可視化に関連した活動を実施予定
- 6) コンクリート舗装小委員会（委員長 亀山修一、副委員長 甲斐 明、種綿順一）
 - (1) 小委員会及び分科会の開催
「(仮) 北海道におけるコンクリート舗装の設計・施工の手引き」の策定作業
 - (2) 現場見学会・勉強会の開催

IV. トンネル研究委員会（昭和 60 年 11 月設立 会員 236 名）

（委員長 藤井義明、 副委員長 熊谷政行、佐藤彰紀、古俣直紀
幹事長 蟹江俊仁、事務局長 荒木雅紀）

1. 平成 26 年度事業報告

1-1 技術小委員会

1) TMS 分科会

- (1) トンネルのロングライフ化に関する研究
 - ・劣化度を知るための基礎資料収集（収集実績なし）
 - ・覆工コンクリートの施工方法資料収集（収集実績なし）
 - ・劣化状況の把握及び検討（TMS 構築の実施）
- (2) 新素材断熱材（ノンフロン）に関する研究
 - ・新フロン断熱材のヒアリング
- (3) 内部断熱材の算定式検証
 - ・今年度 収集実績無し

2) NATM 分科会

- (1) NATM に関する資料の収集
 - (2) 北海道のトンネルに関連する論文の収集
- ##### 3) トンネル 21 分科会
- (1) 新技術・新工法 会報の紹介（56 号、57 号への掲載）
 - (2) 北海道の道路トンネル第 5 集（2008～2012 供用）準備
 - ・既竣工トンネルのデータ収集、施工記録台帳のチェック

4) その他

- ・今後の各分科会の編成および活動方針の検討

5) 会 議

- (1) 小委員会：1 回（事務局会議）
 - (2) TMS 分科会：1 回
 - (3) NATM 分科会：2 回、論文収集 WG 1 回
 - (4) トンネル 21 分科会：2 回
 - (5) 活動報告会：1 回
 - (6) トンネル技術に関する講演会：1 回（平成 26 年 9 月 12 日） 参加者 67 名
 - 「トンネル技術の 50 年を振り返って」 京都大学大学院 朝倉俊弘
 - 「トンネルの変状と現象解明に向けた取り組みの事例」 寒地土木研究所 岡崎健治
 - 「北海道新幹線の概況について」 JR TT 北海道新幹線建設局 湯澤謙一郎
 - 「小土被り山岳トンネルにおける事前地山改良工の適用について」
- （株）レールウェイエンジニアリング 野々村政一

1-2 講習講演小委員会

1) 現地見学会

- ・日 時：平成 26 年 9 月 26 日（金）
- ・場 所：新雄冬岬トンネル工事
（前田・荒井 特定建設工事共同企業体）
留萌トンネル工事
（岩田地崎建設株式会社）
- ・参加者数：64 名



会報 第 56 号



北海道の道路トンネル第 4 集
（発刊済み）

2) 土木の日

- ・日 時 : 平成 26 年 11 月 16 日(日)～18 日(火)
- ・場 所 : 札幌駅前地下歩行空間憩いの空間
- ・テ ー マ : 「北の暮らしを支える土木技術」(7 研究委員会合同)
- ・内 容 : パネル展示, パネルクイズなど

3) 2015 トンネル技術研究発表会

- ・日 時 : 平成 27 年 2 月 27 日 (金) 10:00～17:00
- ・場 所 : 北海道大学学術交流会館
 - *特別講演 : 「トンネルの維持管理技術 (鉄道の現状と最近の研究)」
公益社団法人 鉄道総合技術研究所
構造物技術研究部 主管研究員 小島芳之
 - *研究発表 : 8 編
 - *参加人数 : 発表会 204 名 意見交換会 157 名

4) 会 議

(1) 小委員会 : 2 回

1-3 地方小委員会

1) 札幌地区委員会

平成 26 年 10 月 24 日(金) 参加人員 25 名(札幌地区)
現場見学会および勉強会 (小樽地区との共同開催)

2) 小樽地区委員会

平成 26 年 10 月 24 日(金) 参加人員 19 名(小樽地区)
現場見学会 : 一般国道 5 号 小樽市 忍路トンネル工事
勉強会 : 事業および工事概要説明、トンネル定期点検要領の改訂について、スマートベンチレーションシステムについて

3) 函館地区委員会

平成 26 年 7 月 8 日(火) 参加人員 70 名
現場見学会 : 道道江差木古内線 新吉堀トンネル工事
意見交換会

平成 27 年 3 月 12 日(木) 参加人員 29 名
勉強会、意見交換会

4) 室蘭地区委員会

平成 26 年 10 月 24 日 (金) 参加人員 46 名
勉強会 : 1. NATM 以前の覆工は何処に問題があるのかー在来工法で施工したトンネルの維持管理ー
2. 在来工法における覆工背面空洞の裏込め注入の施工
3. フィールドビュー360° の工事現場での活用例
4. 光波を用いた計測システムの紹介
5. トンネル工事における消費電力見える化ースマートサイトシステムー
6. 鋼製支保工加工技術、覆工コンクリート養生、長万部工場新設

5) 旭川・稚内・留萌・網走地区委員会

平成 26 年 11 月 17～18 日(月・火) 参加人員 47 名
工事説明会及び意見交換会 (17 日)
現場見学会(18 日) : 一般国道 40 号 音威子府村 音中トンネル工事
一般国道 40 号 音威子府村 音威子府トンネル工事

6) 帯広・釧路地区委員会

平成 26 年 10 月 29 日(水) 参加人員 17 名

現場見学会：釧路コールマイン株式会社 採掘現場

7) 事務局会議：1 回

1－4 事務局

1) 出納事務

2) 会報編集・発行 会報第 56 号、第 57 号編集・発行

3) 常任委員会 2 回開催 平成 26 年 5 月 29 日(木)、平成 27 年 1 月 29 日(木)

4) 定期総会 平成 26 年 6 月 6 日(金)

5) 企画運営会議 平成 27 年 1 月 29 日(木)

6) ホームページ管理 URL <http://tunnel-ceth.jp/>

2. 平成 27 年度事業計画

2－1 技術小委員会

1) TMS 分科会

(1) トンネルのロングライフ化に関する研究

- ・劣化度を知るための基礎資料収集（アンケート依頼を実施）
- ・覆工コンクリートの施工方法資料収集（アンケート依頼を実施）
- ・劣化状況の把握及び検討（TMS 構築を継続）

(2) 新素材断熱材（ノンフロン）に関する研究

- ・新フロン断熱材の情報収集及び問題点抽出（開発状況、材料特性、価格等）

(3) 内部断熱材の算定式検証

- ・データの追加による算定式の検証（適時）

2) NATM 分科会

(1) NATM に関する資料の収集

(2) 北海道のトンネルに関連する論文の収集

3) トンネル 21 分科会

(1) 新技術・新工法の紹介（トンネル会報第 58 号、59 号への掲載）

(2) 北海道の道路トンネル第 5 集(2008－2012 供用)の編集作業・発刊

- ・データ修正、不足データの C A D 化、書式校正、一覧表・目次等作成

4) 北海道の道路トンネル第 5 集編集委員会

- ・北海道の道路トンネル第 5 集の編集作業、発刊計画等の協議

5) その他

- ・今後の各分科会の編成および活動方針の検討

6) 会 議

(1) 小委員会：2 回予定

(2) TMS 分科会：2 回予定

(3) NATM 分科会：2 回予定

(4) トンネル 21 分科会：2 回予定

(5) 活動報告会：1 回予定

(6) トンネル技術に関する講演会：1 回予定（平成 27 年 9 月 4 日）

2－2 講習講演小委員会

- 1) 現地見学会 日時・場所・内容は未定
- 2) 土木の日 日時・場所・内容は未定
- 3) 2016 トンネル技術研究発表会 日時場所・内容は未定

4) 会 議

- (1) 小委員会：3 回予定
- (2) 幹事会：1 回予定

2－3 地方小委員会

- 1) 札幌地区委員会：現場見学会 小樽管内トンネル新設工事(予定)、小樽地区と合同開催
平成 27 年 9 月～10 月予定
- 2) 小樽地区委員会：現場見学会 小樽管内トンネル新設工事(予定)、札幌地区と合同開催
平成 27 年 9 月～10 月予定
- 3) 函館地区委員会：現場見学会 見学場所、実施時期未定
勉強会 平成 27 年 2 月予定
- 4) 室蘭地区委員会：勉強会あるいは現場見学会 場所未定、平成 27 年 10 月予定
- 5) 旭川・稚内・留萌・網走地区委員会：勉強会あるいは現場見学会 場所、実施時期未定
- 6) 帯広・釧路地区委員会：現場見学会 見学場所、実施時期未定
- 7) 事務局会議： 2 回程度予定

2－4 事務局

- 1) 出納事務
- 2) 会報編集・発行： 施工中のトンネルリストの作成、会報第 56、57 号(30 周年記念号)の編集・
発行
- 3) 常任委員会：2 回予定
- 4) 定期総会
- 5) 企画運営会議：1 回予定
- 6) ホームページ管理
- 7) 30 周年記念事業
- 8) その他：事業計画外の対応 等

V. 道路研究委員会（昭和 29 年 6 月設立、個人会員 61 名、賛助会員 48 社）

（顧問：佐藤 馨一、中辻 隆

委員長：萩原 亨、副委員長：鈴木亘・前川寿清、幹事長：石田 樹、事務局長：太田隆文）

1. 平成 26 年度事業報告

1-1 調査研究

以下の調査研究成果を賛助会員に配布

- 1) (独) 土木研究所寒地土木研究所：『寒地道路研究グループ研究成果集』（目次のみ配布）
- 2) 交通安全 WG：『道路の重要度を考慮した北海道の除雪体制の効率化に関する研究』報告書
- 3) 道路管理 WG：『移動時間信頼性向上による便益推計に関する研究』報告書

1-2 講習・講演会

1) 講演会・総会時『北海道におけるレンタカー観光の今後を考える』

- ・日 時：平成 26 年 6 月 11 日（水） 15：50～17：30 参加者：60 名
- ・場 所：TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン
- ・主 催：北海道土木技術会 道路研究委員会

（1）『北海道観光におけるレンタカー利用実態と観光行動

－NEDO IT 融合 実証実験結果と今後の対応－』

講演者：株式会社デンソー 情報通信事業部 情報通信技術企画室 技術企画課
担当課長 水野 一男氏

（2）『北海道レンタカー観光における One More 観光情報提供の将来展望』

講演者：北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門
准教授 岸 邦宏氏



図 講演会の様子

2) 講演会『交通事故対策の動向に関する講演会』

- ・日 時：平成 26 年 9 月 4 日（木）14:00～16:30 参加者：88 名
- ・場 所：TKP ガーデンシティ札幌駅前 ホール 2C
- ・主 催：北海道土木技術会 道路研究委員会

(1) 『進化する交通事故対策と専門技術者の新たな役割』

講演者：千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
教授 赤羽 弘和氏

(2) 『「平面交差の計画と設計-基礎編-」の改定方針』

講演者：東京大学 生産技術研究所
教授 大口 敬氏



図 講演会の様子

1-3 定期総会

日 時：平成 26 年 6 月 11 日（水）15:10～15:40

場 所：TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

議 題：平成 25 年度事業報告・会計報告、平成 26 年度事業計画・予算

1-4 委員会等

1) 委員会（平成 26 年 6 月 11 日（水）14:30～15:00）TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

2) 幹事会 計 1 回開催

1－5 “土木の日” 協賛事業

1) 日程・場所：平成 26 年 11 月 16 日(日)～18 日(火)

札幌駅前通地下歩行空間憩いの空間

2) 道路研究委員会の展示分

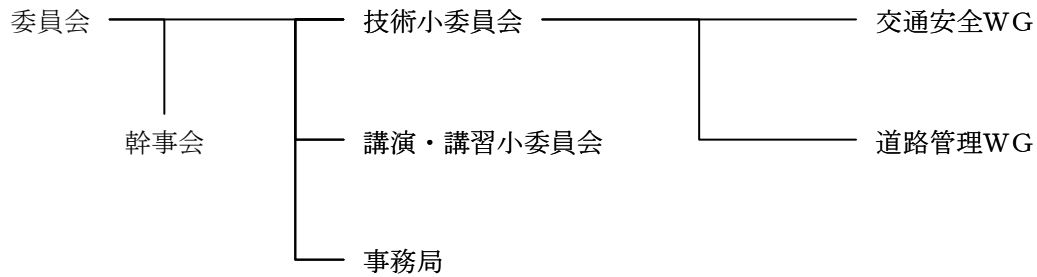
出展会員	展示品
北海道開発局	・道路施設の老朽化対策
東日本高速道路	・北海道横断自動車道 (余市～小樽間工事進捗状況)
札幌市	・歩道のバリアフリー整備



図 パネル展の展示の様子

2. 平成 27 年度事業計画

2-1 組 織



2-2 調査研究

1) 交通安全 WG

＜テーマ＞「道路の重要度を考慮した北海道の除雪体制の効率化に関する研究」

- ・ 北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 岸 邦宏 氏
- ・ 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地交通チーム

2) 道路管理（持続可能性検討）WG

＜テーマ＞「移動時間信頼性向上による便益推計に関する研究」

- ・ 北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 内田 賢悦 氏
- ・ 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地交通チーム

＜テーマ＞ ※必要に応じて 「今後の道路維持管理に関する勉強会」

- ・ 道路研究委員会 幹事・事務局メンバー等
- ・ 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地交通チーム

2-3 講習・講演会（年間計画：年 3～4 回程度の講演・講習会開催予定）

- ・ まとめ役：（一社）北海道開発技術センター 調査研究部 調査第二部長 大川戸 貴浩 氏
- ・ メンバー：北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 岸 邦宏 氏
国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地交通チーム
総括主任研究員 高橋 尚人 氏
（株）ドーコン防災保全部 部長 太田 隆文 氏

2-4 “土木の日” 協賛事業等

- ・ まとめ役：（株）ドーコン防災保全部 担当次長 内藤 利幸 氏

※平成 27 年度 道路研究委員会 役員交代

- ・ 副委員長：鈴木 亘
- ・ 委員：神崎 亨、土井 勝雄、岳本 秀人
- ・ 幹事：伊藤 典弘
- ・ 事務局長：太田 隆文

※平成 26 年度をもって退会した賛助会員：1 会員 （平成 27 年度 賛助会員 48 社）

VI. 土質基礎研究委員会（昭和 40 年 1 月設立 会員 325 名、賛助会員 92 社）

（委員長 石川達也、 副委員長 木幡行宏、西本聡、峯田一彦
幹事長 林憲裕、事務局長 佐野弘毅）

1. 平成 26 年度事業報告

1-1 事業小委員会（小委員長 峯田一彦、幹事 左近利秋）

1) 講演会（総会時）『インドネシアカリマンタン島の泥炭地調査』：主催

- ・ 講演者：北海道工業大学名誉教授 神谷 光彦 氏
- ・ 日 時：平成 26 年 5 月 27 日 参加者 66 名
- ・ 場 所：KKR ホテル札幌

2) 講習会『地盤改良セミナー 土を固めるセメント系固化材』：主催

- ・ 日 時：平成 26 年 10 月 9 日 参加者 49 名
- ・ 場 所：とかちプラザ
- ・ 共 催：(独)土木研究所 寒地土木研究所、(社)セメント協会

3) 講習会『第 48 回セメント系固化材セミナー 最近の固化処理について』：後援

- ・ 日 時：平成 27 年 3 月 10 日 参加者 201 名
- ・ 場 所：ポールスター札幌
- ・ 主 催：(社)セメント協会

1-2 技術小委員会（小委員長 小野丘、幹事 日下部祐基）

1) 第 1 回技術小委員会会議（寒地土木研究所 会議室）

- ・ 日 時：平成 26 年 4 月 4 日
- ・ 第 13 回技術報告会のテーマについて検討した。
（土質基礎に関する「維持・管理・点検」に決定）
- ・ Q & A 改訂版について、今後の作業内容を確認した。
- ・ 平成 26 年度総会報告について検討した。

2) 第 2 回技術小委員会会議および現場見学会（函館市内ホテル 会議室）

- ・ 日 時：平成 26 年 9 月 5 日
- ・ 第 13 回技術報告会について、原稿募集依頼などについて検討した。
- ・ 現場見学として、プレキャスト逆 L 大型ブロック（ハイティウォール工法）施工現場、および現在建設中の新渡島大野駅と北海道新幹線新函館北斗駅を見学した。

3) 第 3 回技術小委員会会議（寒地土木研究所 会議室）

- ・ 日 時：平成 26 年 12 月 18 日
- ・ 第 13 回技術報告会について、役割分担・プログラム等を検討確認した。
- ・ 勉強会を開催した（西村委員：「軟弱地盤の調査・解析方法および施工管理方法」）

4) 第 13 回技術報告会（札幌 北大学術交流会館）

- ・ 日 時：平成 27 年 2 月 13 日 参加人数 91 名
- ・ テーマ：土質基礎に関する「維持・管理・点検」
- ・ 基調講演（「斜面の維持・管理・点検に関する最近の話題」（日特建設(株) 宇次原雅之氏）と 4 編の論文発表

1－3 調査研究小委員会（小委員長 石川達也、幹事 福島宏文）

1）地盤工学に関する技術展示

- ・日 時：平成 26 年 11 月 16 日～18 日
- ・場 所：札幌駅地下歩行空間 憩いの空間
- ・土木の日パネル展示の企画運営を実施した。

2）地盤工学に関する調査研究

- ・凍上分科会：パネル展で凍上に関する展示を実施。
- ・積雪寒冷地の地盤災害リスク分科会：パネル展で凍上に関する展示を実施。
- ・地盤情報分科会：北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップを実施。

1－4 事務局活動

1）幹事会（北海道大学 会議室）

- ・日 時：平成 26 年 5 月 20 日
- ・平成 25 年度事業報告および平成 26 年度事業計画について
- ・新役員および小委員会委員について

2）定期総会、講演会および懇親会（平成 26 年 5 月 27 日、KKR ホテル札幌）

2. 平成 27 年度事業計画

2-1 事業小委員会（小委員長 峯田一彦、幹事 左近利秋）

- 1) 講演会（総会時）『日本の海上空港』：主催
 - ・講演者：北海道大学大学院工学研究院 教授 田中 洋行 氏
 - ・日 時：平成 27 年 5 月 28 日
 - ・場 所：KKR ホテル札幌
- 2) 講習会『補強土壁工法に関する技術報告会』：共催
 - ・日 時：平成 27 年 6 月 25 日 TKP 札幌ビジネスセンター
 - ・主 催：テールアルメ・テクспан協会
- 3) 講習会『地盤改良セミナー ―地盤を固めるセメント系固化材―』：主催
 - ・日 時：平成 27 年 11 月 北見予定
 - ・共 催：(社)セメント協会

2-2 技術小委員会（小委員長 小野丘、幹事 日下部祐基）

- 1) 土質基礎に関する技術検討
 - ・第 14 回土質基礎に関する技術報告会について、「新しい地盤改良工法」をテーマに企画開催する。
 - ・技術力研鑽のための勉強会、および現場見学会を計画開催する。
- 2) Q&A 改訂版の検討
 - ・Q&A 改訂版を作成する。

2-3 調査研究小委員会（小委員長 川端伸一郎、幹事 遠藤秀博）

- 1) 地盤工学に関する技術展示
 - ・土木の日パネル展示（平成 27 年 11 月、札幌市）
（合同主催：北海道土木技術会 全 7 研究委員会）
- 2) 地盤工学に関する調査研究
 - ・分科会ごとに、地盤工学の最新技術に関する資料作成を行う
 - ・凍上分科会：技術資料（パネル）の作成
 - ・積雪寒冷地の地盤災害リスク分科会：技術資料（パネル）の作成
 - ・地盤情報分科会：北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップ

2-4 事務局活動

- 1) 幹事会（北海道大学 会議室）
 - ・日 時：平成 27 年 5 月 21 日
 - ・平成 26 年度事業報告および平成 27 年度事業計画について
 - ・新役員および小委員会委員について
- 2) 定期総会、講演会および懇親会（平成 27 年 5 月 28 日、KKR ホテル札幌）

Ⅶ. 建設マネジメント研究委員会（平成 13 年 11 月設立 会員 280 名）

（委員長 高野伸栄、副委員長 和田忠幸、砂子邦弘、幹事長 倉内公嘉、事務局長 船山健次）

1. 平成 26 年度 事業報告

1-1. 会議等の開催

1) 平成 26 年度通常総会の開催（参加会員数：96 名）

日 時：平成 26 年 6 月 6 日（金） 14:30～15:30

場 所：札幌アспенホテル

2) 講演会（通常総会と共催）（参加人数：94 名）

「若者を建設産業に取り戻す」 講師 内田俊一 氏（一財）建設業振興基金理事長

日 時：平成 26 年 6 月 6 日（金） 16:00～17:30

場 所：札幌アспенホテル

3) 「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会

（1）室蘭経営研究会（参加人数：26 名）

日 時：平成 26 年 6 月 16 日（月）13:30～17:30

場 所：室蘭建設業協会

〔内容〕①基調講演、②室蘭経営研究会からの事例紹介、③意見交換会

4) 拡大常任委員会

日 時：平成 27 年 5 月 15 日（金）

場 所：（一社）北海道開発技術センター

議 題 ①第 15 回（平成 27 年度）通常総会・講演会のスケジュール

②通常総会議案書（案）について

③小委員会の活動報告、その他

1-2. 北海道における「地域シンポジウム」の開催

テーマ：地方における建設業の人材確保・育成の現状と実践に関するシンポジウム

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）13:30～17:00

場 所：北海道大学工学部オープンホール

内 容：基調講演（小磯修二氏）、事例報告、パネルディスカッション 等

参加者：242 名

共 催：公益社団法人 土木学会 建設マネジメント委員会

後 援：北海道開発局、北海道、北海道建設業協会 ほか 全 7 機関

1-3. 各小委員会の活動

1) 公共調達小委員会（小委員会の開催 2 回）

（1）H26 年度 第 1 回アンケートの実施（H26. 7. 8～7. 21）

・H25 に絞り込んだ小委員会で今後取り組むべきテーマの具体的内容に関して、小委員会委員を対象にアンケートを実施。

（2）小委員会で取り上げる具体的検討事項と平成 27 年度の検討方針の決定

・重点的に検討する事項として、「維持管理関連工事」のうち、「補修設計・補修工事」を対象として調達方法等について現状把握と改善方策の検討を行うことを決定。

・「新たな事業執行方式の検証」及び「改正品確法の履行検証」については当面は話題提供や事例紹介等により実状を把握する方針とした。

2) 公共調達小委員会 総合評価WG（WGの開催 1 回）

道内市町村の入札・契約制度アンケートを集計・分析した結果、住民参加型入札に対する市町村への取組みが広がらないことを確認。よって本WGについては、過年度からの取組みで一応の成果が得られたことを踏まえ、平成 26 年度をもって活動を終了することとした。

3) 公共調達小委員会 道路維持WG (WGの開催3回)

適正な道路維持除雪工事・官民負担の考え方に関する研究の一環として、活動を行ってきたが、本年度で一応の成果が得られたことを踏まえ、以下の内容について活動報告として取りまとめ、平成26年度をもって活動を終了することとした。

※平成25年度までの議論・課題整理を踏まえ「安定的な維持除雪体制の確立に向けた方策」としてまとめる

4) 民間活力推進小委員会 (小委員会の開催2回、分科会3回)

(1) 分科会1. 札幌〜ニセコを結ぶ『新たな観光道路「新道路PFI事業」の検討』

(2) 分科会2. 『復興事業促進PPPの継続調査・研究』

(3) 分科会3. 『国土交通省官民連携政策における道内での取組み (PPP/PFI) 』

5) 建設経営小委員会 (小委員会開催2回)、講演会開催1回)

(1) 建設技術者・技能工の確保育成に係る取組に関する問題点や具体的な解決案等について意見交換を行った。

(2) ワークライフバランスWGを設置し、建設業界におけるワークライフバランスに関する情報を収集した。

(3) 北海道大学大学院工学研究科 建設管理工学研究室学生による「建設業に対するイメージ・価値観に関するアンケート調査」報告会の聴講を通じて、求職者である学生が持つ建設業界へのイメージ実態を捉え、今後の採用・育成活動に関する情報を収集した。

6) 建設経営小委員会 ワークライフバランスWG (WG開催3回、講演会1回)

平成26年度に新設された当WGは、8月6日に初会合を開き、議論の方向性を協議。以後、苫小牧高専の松尾優子准教授によるワークライフバランス講演会や、上記(3)に示す北大工学部の報告会などを経て、当WGの活動の方向性を確認、次年度への取組みとして、ワークライフバランスの啓発用パンフレットを作成することを決定した。

7) 生産システム小委員会 (小委員会開催2回)

建設生産システムにおける生産性の向上や効率化についての調査・研究の一環として、以下の活動を行った。

(1) 情報化施工に関する課題の把握・検討

(2) CIM (コンストラクション・インフォメーション・モデリング) の導入に係る情報提供

8) アセットマネジメント小委員会 (小委員会開催3回)

社会基盤施設の維持管理に関する研究の一環として、以下の活動を行った。

(1) 橋梁長寿命化Q&A集の改訂版の作成

(2) 市町村への技術的支援に向けた情報収集として、道路メンテナンス会議の取り組みなど、昨今の国の自治体支援動向について、外部講師を招き、意見交換を行った。

1-4. 広報活動

ホームページの更新及び掲載。(各小委員会活動状況の報告書、総会、講演会等の内容)

1-5. 「土木の日」協賛事業

北海道土木技術会主催の土木の日パネル展2014「北の暮らしを支える土木」(平成26年11月16日~18日 札幌駅前通り地下歩行空間で開催)に当研究委員会のパネルを展示。

2. 平成27年度 事業計画

本委員会では、平成26年度に引き続き、北海道における建設産業並びに建設技術の進展、技術者の育成を図ることを主たる目的として以下の事業を行う。

2-1. 平成27年度総会の開催

平成27年6月11日（木）に実施済み。

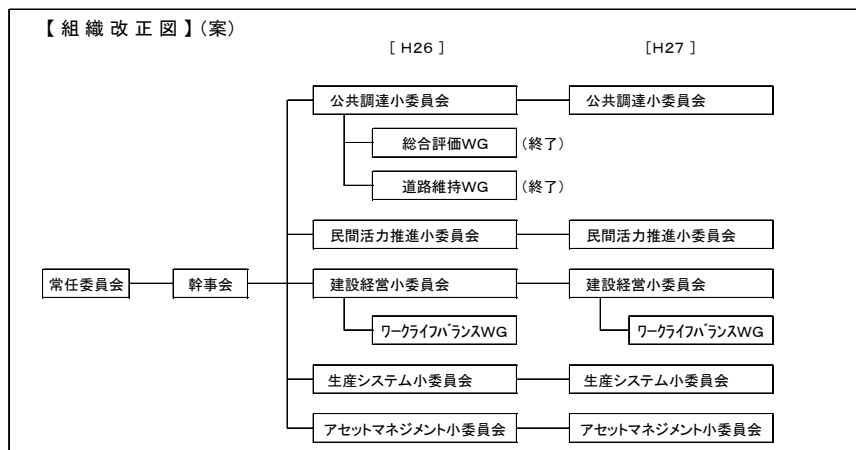
2-2. 講演会の開催

平成26年6月11日（木）の総会後に実施済みであるが、以後は年度内において適宜実施を検討。

2-3. 各小委員会の事業計画

平成27年度は、公共調達小委員会の「総合評価WG」と「道路維持WG」について、継続課題として取り組んできた調査・研究活動に一応の成果が得られたことから、当WGは平成26年度を以て終了することとした。

また、当委員会では、北海道における建設産業の健全な発展のため、時節の変化に応じた迅速且つ多様な視点での研究活動を目指すものであるが、昨今の社会情勢では、維持更新への転換と既存ストックの活用、地域防災への取り組み強化、建設工事の担い手確保、建設投資の減少と生産システムの効率化など、多方面において急激な変化が進行している。このため、今年度の研究活動としては5つの小委員会と、1つのワーキングにおいて以下の調査・研究を行うほか、将来の変化を見越した新たな研究テーマと小委員会等の組織体制について新たに検討を行うこととした。



1) 公共調達小委員会

今後取り組むべきテーマとして平成26年度に決定した以下の課題について調査・研究を進める。

- (1) 「補修設計・補修工事」に係る実態把握と調達方法等に係る改善策の検討
- (2) CM・PPP等の「新たな事業執行方式」の事例報告等
- (3) 改正品確法の履行状況に係る最新情報提供等

2) 民間活力推進小委員会

北海道における民間資金や能力を活用する研究の一環として、以下の調査・研究を行う。

- (1) 民間活力導入事例の調査・研究を継続する。
 - ・復興事業促進PPPの継続調査・研究
 - ・H26年度に取り組んだ「新たな観光道路」の事業可能性について継続研究する
- (2) 公共施設等総合管理計画の策定要請（総務省H26.4）に関する調査・研究を行う。
 - ・地方公共施設の維持管理・更新に対する民間活力導入の検討調査
 - ・都道府県、政令指定都市、市町村の取り組み状況調査
- (3) 国土交通省官民連携政策における道内での取り組み（PPP/PFI）の可能性を研究する。
 - ・平成27年度PPP/PFI推進のための案件に関する調査・研究
 - ・PPP（民間活力事業）の先進事例の調査

(4) 民間活力推進事業の視察を行う。

・ P P P / P F I などの先進的な事例箇所について視察調査の実施

3) 建設経営小委員会

前年度の議論を踏まえ、人材の採用増につながるような具体的な活動を目指すこととし、下記の様な活動を検討していく。

(1) 採用・人材確保育成に関するユニークな取組事例の調査

(2) 建青会全道大会参加の新卒者との意見交換

(3) 地方建設企業の技術者を対象とした冬期合同技術講習会のスキームづくり

4) 建設経営小委員会 ワークライフバランスWG

「女性が働きやすい職場環境の整備は、若者の定着化にもつながる」ーことを共通認識とし、建設経営者及び管理職にワークライフバランスに対する理解を深めてもらうため、「(仮称)ワークライフバランスってなに?」と題するパンフレットを作成する。パンフレット作成に当たっては、建設業の経営者や管理職へのアンケート調査も実施する予定。

5) 生産システム小委員会

(1) I C Tによる新たな建設設計・施工等の生産技術の導入など、最新技術の動向に関する情報提供を踏まえた調査・検討について、平成26年度の検討に引き続き進める。

(2) 一方で道内においては(1)のような技術の普及が未だ進んでいるとは言い難い現状もあることから、プレキャスト化をはじめとした現場の省力化・効率化のための、より実地的な調査研究にも着手する。

6) アセットマネジメント小委員会

(1) 道内のアセットマネジメントの充実に資する情報の収集及び道内土木技術者への情報発信を目的に活動する

(2) H27年度においては、情報収集の視点や情報発信の方法等について検討するとともに、収集する情報内容に応じて外部講師を招いての意見交換会を企画・実施する。

2-4. 地域建設産業活動への支援事業

地域建設業が地域活性化のために行っている諸活動への支援として、本年度も引き続き実施する。

2-5. 広報活動

ホームページの充実と各小委員会の活動報告等を掲載する。

2-6. 土木の日協賛事業

北海道土木技術会の「土木の日パネル展」に協賛し、当委員会として参画する。パネルの選定

・作製については、各小委員長が協議して、訴求力のある研究テーマを取り上げる。

2-7. その他

会員相互の交流を図る。

各 研 究 委 員 会 の ト ピ ッ ク ス

I. 鋼道路橋研究委員会

平成26年度は鋼道路橋研究委員会が発足して50周年を迎え、これを記念いたしまして、「50周年記念事業」※を開催しました。記念事業のうち、「夏休み親子見学会」と「鋼橋技術発表会及び講演会」について報告致します。

1) 夏休み親子見学会（参加者 子ども31名 大人30名）

夏休み親子見学会は、50周年記念事業として、当委員会の会員であるお父さん（お母さん）と小学生以下のお子さんの親子を対象として、お父さんが関わっている「橋を架ける仕事」を実際に見てもらい、少しでも土木に興味を持ってもらい、夏休みの自由研究のテーマにしておこうという趣旨で開催いたしました。

7月30日（水）夏晴れの中、朝9時に大通公園をバス2台で出発。石狩湾新港にある「めっき工場」を見学し、茨戸のレストランで昼食。その後、石狩川に建設中の「札幌大橋」の現場を見学するという一日がかりの見学会です。最初の「めっき工場」（株双葉工業社）では、約1時間半にわたり、亜鉛めっきとは何かの勉強と実際にめっきをしている工場の中を見学しました。子どもたちは、道内最大級のめっき槽に次々に部材が浸かっていく様子や、浸かった部材がピカピカになって出てくる様子。工場内のめっきの熱さを肌で感じ、驚きとともに非常に興味をもったように感じました。工場見学のあとは、昼食に美味しいお肉で食べてパワーアップし、いよいよ現場見学です。工事の概要を下記に示します。

発注者：札幌開発建設部

受注者：IHI・川田特定JV

工事名：一般国道337号当別町 札幌大橋上部工工事

橋梁形式：2径間連続鈑桁＋3径間連続箱桁（鈑桁から箱桁へ連続変化）、3径間連続鈑桁

橋 長：695.25m

幅 員：10.45m

架設工法：トラベラークレーンによる張り出し架設工法、クレーンベント工法

見学会の当日は、トラベラークレーンによる張り出し架設の真っ最中でした。橋全体の工事が眺望できるテラスで工事概要を、発注者である札幌開発建設部札幌道路事務所の蛸澤課長をはじめ担当の方々に、子どもにも分かりやすい言葉で説明（踊り付き）して頂きました。その後、2班に分かれて、クレーン車の試乗体験（写真撮影）、ボルトの締付け体験、クイズコーナーでのクイズ等。盛り沢山の内容に子どもたちは大喜びでした。気温32℃のこの夏1番の熱さの中、熱中症の心配をしましたが、みんな元気に無事故で帰ることができました。帰るバスから手を振る子ども達の満足そうな表情から大成功の見学会になったと実感しました。



写真－1 めっき工場見学



写真－2 架設現場見学

2) 橋梁技術発表会及び講演会

橋梁技術発表会及び講演会は、一般社団法人日本橋梁建設協会との共催で開催しており、本年は11月14日（金）にホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。特別講演に（公益財団法人）東京都道路整備保全公社 道路アセットマネジメント推進室長 高木 千太郎氏をお迎えし、『「メンテナンス元年」その後』と題して、橋梁の保全の現状と今後について最新情報及び将来展望の講演をして頂きました。注目の話題が聞けるとあって、忙しい時期ではありましたが、152名もの方に参加して頂きました。講演では実際のデータで分かり易く日本のインフラの現状を説明していただき、今後のメンテナンスのあり方やメンテナンスの取り組み方、特に自治体がインフラを維持管理する上でのいくつかのキーワードを提示して頂き、われわれが取り組むべきことを示唆するものでありました。

また、日本橋梁建設協会の講師からは、橋梁に関する最新技術、最新情報の話題を3テーマの発表があり、質疑応答も含め盛況に終えることができました。3テーマについては下記のとおりです。

1) 技術発表 - 1【製作技術の変遷と今後の展望】

（一社）日本橋梁建設協会 製作小委員会 製作部会 板橋 健一

2) 技術発表 - 2【鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究】

（一社）日本橋梁建設協会 床版小委員会 床版技術部会 皆田 龍一

3) 技術発表 - 3【単径間ダブルデッキトラスの送出しについて】

（一社）日本橋梁建設協会 架設小委員会 架設部会 横田 慎二



写真－3 高木千太郎氏 講演



写真－4 聴講状況

※鋼道路橋研究委員会設立50周年を記念して以下の事業を行いました。

- ①先輩技術者による座談会（H26.7.16 鋼道路橋研究委員会にご尽力頂いた8名の先輩技術者による座談会、コーディネーターは安江 哲 前幹事長）
- ②親子現場見学会（H26.7.30 札幌大橋上部工工事、亜鉛めっき工場見学 鋼道路橋研究委員会所属の委員と小学生以下のお子さんが参加した現場見学会 61名参加）
- ③現場視察会（H26.10.3～4 東京都復興橋梁（隅田川橋梁）、ゲートブリッジ等の見学および懇親会の開催 25名参加）
- ④記念式典・祝賀会（H26.10.10 土木技術会阿部会長の開会挨拶、本田北海道開発局建設部長、鋼橋技術研究会の増田副会長の挨拶を頂き、鏡開き、2名の記念講演を実施 110名参加）
- ⑤土木の日パネル展（H26.11.16～18 土木技術会主催のパネル展。H26は地下歩行空間で開催。鋼道路橋研究委員会が50周年ということでパネルを一新 3日間で2571名参加）
- ⑥50周年記念誌の編さん・発行

1. 設立 60 周年事業

2. 現場見学会

開催	催	:	北海道土木技術会コンクリート研究委員会とダム工学会の共同開催		
日	時	:	1 日目	平成 26 年 9 月 25 日 (木)	8:00~17:00 釧路市内泊
		:	2 日目	平成 26 年 9 月 26 日 (木)	8:30~19:00
見学場所	:		1 日目	釧路開発建設部「オビラシケ川橋」(建設中の P C 上部工工事) 星が浦海岸通架道橋 複合 P C ランガー橋他	
	:		2 日目	札内川ダム・十勝大橋	
参加者	:		1 日目	北見工業大学 2 年~大学院生 ・井上准教授・宮森准教授 37 名 一般参加者 26 名 合計 63 名	
	:		2 日目	一般参加者 24 名	



学生（オビラシケ川橋）



(9) **道東**

オビラシケ川橋など視察

北海道土木技術会 60周年記念で道東へ
コンクリート研究委

[illegible]

工法、技術説明に真剣

北見
大生
工大
オビラシケ川橋工事で

【鉦路町】北海道土木技術会の設立60周年記念の事業として25日、同会のコンクリート研究委員会のメンバー28人と北見工大学の学生ら38人が、鉦路開建の発注で現在建設中の鉦路外環状道路のオビシシケ川橋（鉦

北 海 道 通 信

(第三種郵便物認可) (6)

道土木技術会コンクリート研究委
大学生に学びの場を提供
60周年記念し現場視察会

各企業等の社会貢献

ダム「勝天橋」北岸に、三ツリー
木の生る千六八、未だ授 機会とほし
樹の幹 千六八が 呼びかけ、

[illegible]

北海道通信 9月29日掲載

路町別荘の建設事を視察、工事を施している。期に着手、15年12月までの工で橋長が344・6メートル、高さ46・3メートルの橋梁を建設している。

この日の説明会は、雨のため詳細の説明はできなかつたが、橋脚から左右のバランズを取りながら

釧路新聞 9月26日掲載

3. 60 周年記念講演会・懇親会

・コンクリート研究委員会設立 60 周年記念講演会

日時：平成 26 年 11 月 26 日（水）14:00～17:00

場所：ホテル札幌ガーデンパレス 2F 「丹頂」

参加者：120 名【コンクリート研究委員会 60 周年記念 QUO カードを進呈】

来賓挨拶：北海道土木技術会 会長 阿部 芳昭 様

講演 1：『コンクリートと私』ーコンクリートを取り巻く課題と今後のあるべき姿ー

北海道大学名誉教授

一般社団法人 第三者社会基盤技術評価支援機構・北海道（HITEST）代表理事

第 4 代 北海道土木技術会 コンクリート研究委員会 委員長 佐伯 昇 様

講演 2：『超高強度繊維補強コンクリートに関する小委員会 活動報告』

第 1 章 はじめに 上田小委員長

第 2 章 UFC の概要 武者委員 [大成建設㈱]

第 3 章 可能性が期待できる用途 三上委員 [日本高圧コンクリート㈱]

第 4 章 有用性が期待できる橋梁上部工試設計 高橋委員 [ドーピー建設工業㈱]

第 5 章 夢のある設計例 中村委員 [いであ㈱]

・コンクリート研究委員会設立 60 周年記念懇親会

日時：平成 26 年 11 月 26 日（水）17:15～19:00

場所：ホテル札幌ガーデンパレス 4F「平安」

参加者：60 名



来賓：阿部会長



上田委員長



佐伯 昇 様



60 周年記念事業実行委員会
寿楽委員長



会場の様子



UFC 武者委員



UFC 三上委員



UFC 高橋委員



UFC 中村委員

60 周年記念 QUO カード



Ⅲ. 舗装研究委員会

平成26年度の舗装研究委員会の活動内容の中から、トピックとして講演講習小委員会とコンクリート舗装小委員会の活動について紹介させていただきます。

1. コンクリート舗装小委員会

コンクリート舗装小委員会では、仕様書等に記載されている技術の解説や、技術の進展に伴う施工方法や材料等に関する改善事例の他、今後の社会資本の維持管理や更新に向けて有効と思われる新しい工法などを紹介することを目的とした活動を行っています。

これらの活動の一つとして、今年度は早期交通開放型コンクリート舗装（1Day Pavé）の公開施工に参画しておりますので、1Day Pavé の概要と現場見学会の状況を報告いたします。

1-1. 早期交通開放型コンクリート舗装（1Day Pavé）

コンクリート舗装のLCCはアスファルト舗装の約 1/3 程度で、長寿命化対策に最も適している舗装ですが、従来の一般的な施工方法では養生期間が3～5日程度（カタログ値：14日程度）必要であったことから、採用検討の際に養生期間が課題となる場合があります。

早期交通開放型コンクリート舗装（1Day Pavé NETIS:KT-130044-A）は、コンクリート打設後1日以内での交通解放が可能となる早期の強度発現性能があります。また、ポンプ施工にも対応できる材料であることから、施工箇所の制約にとらわれない施工性を有しています。さらに、水セメント比が35%程度のコンクリートが用いられるので、融雪剤等の薬品や凍結融解に対する抵抗性に対しても、従来工法よりも優れた性能を有していることが期待されています。

表 1Day Pavé の配合：北海道ティーシー生コン（株）苫小牧工場

セメントの種類	粗骨材 最大寸法 (mm)	目標 スランプフロー (cm)	目標 空気量 (%)	W/C (%)	s/a (%)	単位量 (kg/m ³)				
						W	C	S	G	SP
早強	20	40±5	4.5±1.5	35	45	165	471	778	950	C×0.9%

1-2. 苫小牧SS構内舗装工事（公開施工・見学会）：主催：北海道生コン工業組合・セメント協会

公開施工（コンクリート打設）は、平成26年9月25日に実施されました。施工場所は、太平洋セメント（株）苫小牧サービスステーションの構内で施工されました。

見学会では、参加者が180名程度と盛況の中で執りおこなわれ、参加者からの質問等に対しても、主催者や施工者が丁寧に回答されていました。

北海道の道路舗装に関する課題は山積みですので、1Day Pavé のような従来技術を改善した工法など、新たな技術を積極的に検証する事も必要な時代背景が感じられています。

1Day Pavé を通じて、道路等の老朽化対策や長期耐久性を目的とした、工法検討や適用場所の条件検討に対して一助となることが期待されます。



写真 公開施工・見学会の状況

2. 講演講習小委員会

平成26年度の講演講習小委員会の活動の中から、笠原篤氏と菊川滋氏をお招きして開催しました「特別講演会」と、土木の日パネル展2014への取り組みについて紹介いたします。

2-1. 特別講演会

日 時：平成26年9月17日 13:20～16:40

場 所：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 5F

後 援：(公社)土木学会北海道支部、(一社)セメント協会

参 加：91名

〔第1部〕

演 題：アスファルト混合物の剥離対策

講 師：北海道科学大学 名誉教授 笠原 篤 氏

概 要：施工ジョイント部の破損や橋面舗装における流動とポットホールなど舗装の破壊原因について説明していただきました。また、世界各国の剥離試験方法の紹介と、北海道におけるアスファルト舗装の剥離対策について提案していただきました。



笠原教授



菊川理事長

〔第2部〕

演 題：日本の国土と道路を考える

講 師：(一財)経済調査会 理事長 菊川 滋 氏

概 要：人口減少、災害リスク、国際競争力の低下など我が国が抱える諸問題に対して、防災・減災とインフラ老朽化対策、国際競争力の強化と観光戦略について説明していただきました。また、今後の道路政策の方向性として、「①拠点間を安全でクリーンな高速道路でつなぐ」、「②既存道路ネットワークを賢く使う」、「③メンテナンスサイクルを回す」、「④人が集まる道路空間を創る」、「⑤コンクリート系舗装の活用」について説明していただきました。



講演状況

2-2. 土木の日パネル展2014への参加

日 時：平成26年11月16日(日)～18日(火) 10:00～19:00

場 所：駅前地下歩行空間 憩いの空間(北2～3条近辺)

舗装研究委員会の「土木の日パネル展2014」への出展パネルは以下のとおりです。

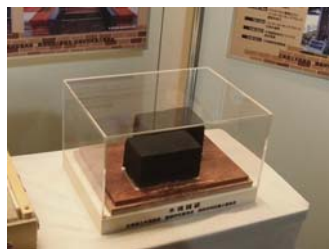
①共通パネル(1500×900)×1枚 ③木塊舗装パネル(B1 縦)×3枚

②舗装パネル(1500×900)×1枚 ④コンクリート舗装パネル(B1 縦)×1枚

「共通パネル」は、舗装の起源や歴史、アスファルト舗装とコンクリート舗装の構造、快適性、安全性、経済性など舗装に求められる機能について、「舗装パネル」には、北海道のアスファルト舗装の種類と表層混合物の変遷についてまとめています。また、「木塊舗装パネル」は、平成23年度に土木学会選奨土木遺産となりました「札幌市北3条通広場(アカプラ)」の木塊舗装保全工事について技術史料収集小委員会が3枚にまとめています。さらに、コンクリート舗装小委員会からは、コンクリート舗装の特徴や施工方法、施工例を記述した「コンクリート舗装パネル」を提供していただきました。同時に「木塊舗装の標本」と「各種舗装の標本」を展示しました。



舗装研究委員会 出展エリア



木塊舗装標本



各種舗装標本

Ⅳ. トンネル研究委員会

トンネル研究委員会が昨年度主催した、「2015 トンネル技術の特別講演と技術研究発表会」の紹介をいたします。本年は、特別講演 1 編、一般論文 8 編の発表（次頁参照）があり、204 名の参加がありました。

■特別講演

特別講演は「トンネルの維持管理技術（鉄道の現状と最近の研究）」と題しまして、公益財団法人鉄道総合技術研究所構造物技術研究部 主管研究員 小島 芳之氏に講演をしていただきました。

はじめに、鉄道トンネルの維持管理の現状と課題についてお話しいただきました。鉄道トンネル(JR)の総延長は2,300kmに達しており、その内戦前に建設されたものが4分の1、高度経済成長期に建設されたものが2分の1あり、道路や水路といった他事業者のトンネルと同じく建設の時代から維持管理の時代へシフトしてきています。特に1999年に発生した山陽新幹線福岡トンネルでの覆工コンクリート剥落事故を契機に、技術基準、検査法（非破壊検査）、補修補強法、補修体制等が整備され、鉄道トンネルの安全性は向上したとのことでした。

しかしながら、対象トンネルにおいては、現象の多様性（地圧、剥落、漏水・凍結、環境、耐震）、線区の多様性（地方・中小民鉄線では老朽・狭小、新幹線では高速走行・長大化、地下鉄ではRC部材劣化）があります。また、補修技術者の不足・高齢化への対応も必要であり、事業者の連携、共有DB構築、技術者育成等の課題があるとのことでした。

次に地圧による変状対策の実際と最近の研究についてお話しいただきました。変状対策の実際としては、営業線の3トンネルで発生した地圧による変状現象と対策工事を紹介いただき、トンネル工学は経験工学であり事例に学ぶことが重要であること、そのためには積極的な公表、蓄積（DB化）、情報共有が必要で、教訓を体系化することにより技術が発展すると話されました。

最近の地圧対策に関する研究では、模型実験によるトンネルの変形挙動評価と対策工の効果検証、地山劣化モデルを用いた塑性圧による変状予測法について紹介していただきました。

■一般論文

一般論文は、トンネル施工技術に関する報告（球面切羽による全断面掘削と一掘進長延伸、長距離バルコンによるずり運搬、覆工コンクリートの品質向上策）が3編、変状トンネルに関する報告（蛇紋岩地質による変状事例、時間依存性変状の診断手法）が2編、トンネル照明のLED化に関する報告が1編、施工実績報告（断層活動により破砕化された新第三紀泥岩地山、含軽石火山礫凝灰岩地山）が2編の計8編の発表がありました。



小島 芳之氏



会場の様子

<発表題目と講演者>

【特別講演 1題】

「トンネルの維持管理技術（鉄道の現状と最近の研究）」

公益財団法人 鉄道総合技術研究所構造物技術研究部 主管研究員

小島 芳之

【一般論文 8題】

「一般国道336号広尾町新宝浜トンネル南工事

球面切羽による全断面発破掘削の適用性と一掘進長延伸試験施工」

北海道開発局 帯広開発建設部 広尾道路事務所

村上 勝、佐々木 隆

清水建設株式会社 北海道支店 土木部

雨宮 啓二、○坂本 法典

「蛇紋岩地質の強大な地圧による変状について」

— 一般国道40号 音威子府村 音中トンネル —

北海道開発局 旭川開発建設部 道路整備保全課

○小林 暁、松久 浩

北海道開発局 旭川開発建設部 道路整備保全課

佐々木 博一、堀田 靖文

北海道開発局 旭川開発建設部 土別道路事務所

掛田 浩司

株式会社 地圏総合コンサルタント

大塚 智久、竹花 大介

「山岳トンネルにおける時間依存性変状と地山弾性波速度に関する一考察」

株式会社 フジタ 技術センター

○丹羽 廣海、村山 秀幸

独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所

岡崎 健治、伊東 佳彦

「供用後30年経過したトンネルにおけるLEDへの照明設備改修事例」

北海道留萌振興局 留萌建設管理部

和田 昭一

株式会社 エーティック

岡田 正之

株式会社 エーティック 技術第一部

熊木 功治、○八谷 宏治

「山岳トンネルのずり運搬における長距離ベルコンの活用」

— 北海道横断自動車道 浦幌町 釧勝トンネル工事 —

北海道開発局 帯広開発建設部 道路整備保全課

名内 慎助

北海道開発局 帯広開発建設部 足寄道路事務所

古内 徹、熊谷 信男

戸田・熊谷・伊藤特定建設工事共同企業体

○高橋 和寛

「覆エコンクリート品質向上対策とSWATによる表層品質評価」

西松建設株式会社 技術研究所

○伊藤 忠彦

西松建設株式会社 北日本支社

八巻 大介

横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院

細田 暁

「断層活動により破碎化された新第三紀泥岩の掘削実績」

— 旭川十勝道路 富良野市 北の峰トンネル工事 —

北海道開発局 旭川開発建設部 富良野道路事務所

佐藤 秀史、齋藤 宏樹、鹿嶋 辰紀

鹿島建設株式会社 北海道支店

成田 望、○横田 泰宏

鹿島建設株式会社 技術研究所

山本 拓治、伊達 健介

「含軽石火山礫凝灰岩におけるトンネル掘削とその変位特性について」

— 北海道横断自動車道 天狗山トンネル工事 —

東日本高速道路株式会社 北海道支社 小樽工事事務所

林 稔、村上 和行、菅田 謙一

安藤ハザマ・佐藤工業共同企業体

海老子川 啓、佐藤 正、○日野 道雄

V. 道路研究委員会トピックス

平成 26 年度、道路研究委員会では主催、共催により、計 2 回の講演会を開催しました。それぞれの概要を紹介します。

■第 1 回講演会 平成 26 年 6 月 11 日

北海道におけるレンタカー観光の今後を考えることを目的に、道内観光におけるレンタカー利用の実態を把握するための実証実験と観光情報提供の将来展望について、2 名の講師をお招きし、ご紹介いただきました。

本講演は、平成 24・25 年度 NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）IT 融合事業にて実施した「北海道観光における観光客導線による総合交通産業エコ事業」において得られたレンタカー利用の観光行動実態及び調査分析結果を報告していただいたものです。



図 第 1 回講演会の様子

1) 北海道観光におけるレンタカー利用実態と観光行動

株式会社デンソー 情報通信事業部 情報通信技術企画室 技術企画課 担当課長の水野一男様から、レンタカー利用の観光行動実態調査の調査概要と、分析結果についてお話していただきました。

観光企画行動の分析結果から、「旅行開始 1 ヶ月より前に旅行計画を立案する人が 7 割」、「大まかな行動計画のみ立案するひとが 7 割」で、事前検討の情報源の主流はガイドブックとのことでした。一方、旅行中の行動計画では、宿泊先で情報を収集する他、昼間は車内で観光地を検索している実態が明らかとなりました。移動中の検索理由は「時間が余った」という人が全旅行者の 25%を占めているとのことです。

レンタカー観光行動の分析結果では、基本的にナビゲーションシステムに従順しているため、走行経路の黄金ルートが結果的にできているとのことです。その一方で、適切な距離感がなく、観光行動が成立しない事例などの紹介もありました（例：新千歳空港→函館観光→札幌市内宿泊、新千歳空港→網走を 15 時出発等）。また、レンタカー返却後飛行機出発までの余裕時間が平均 1 時間 47 分、最大 4 時間 55 分であったとのことです。

調査分析の結果から、「①計画立案にはガイドブックの存在が大きい」、「②北海道観光・レンタカー利用者は、行動計画としてピンポイントの観光と宿泊先を大まかに決めているが、その他立ち寄り先についてはノーアイデア」、「③レンタカー搭載ナビゲーションに依存した走行経路となる」、「④北海道レンタカー観光における余り時間は多く、One More 観光案内のニーズは高い」といったことが明らかになりました。以上を踏まえ、ガイドブックを告知情報サイトとして使うとともに、機内誌等でのアプリ紹介、機内 Wi-Fi によるスマホアプリ配信等、スマホアプリによる走行中の周辺観光案内のプッシュ配信、ナビゲーションシステムとアプリの連携による情報提供システム構築などが提案されました。

2) 北海道レンタカー観光における One More 観光情報提供の将来展望

北海道大学大学院工学研究院北方圏環境政策工学部門の准教授である岸邦宏様から、上述の水野様の講演で課題として挙げられた「One More 観光案内」について、観光行動の分析から得られたそのターゲットと実現に向けた課題についてご講演いただきました。

観光は、北海道の基幹産業のひとつであるものの、特に冬期は降雪・路面状態悪化等による渋滞・遅れにより旅行時間の信頼性が低下しているといった問題点があります。このような背景から、レンタカー旅行者は余裕を持って空港に到着する傾向があり、旅行時間が確実にわかれば、空港到着がもう少し遅くても良くなり、空港に到着する前にもう 1 箇所観光地に立ち寄る「One more 観光」

が可能になります。

レンタカーのプロブデータから、レンタカー観光行動の詳細分析と周遊観光行動モデルを構築した結果、「One more 観光」情報提供の対象は、空港滞在時間が2.5時間以上となる観光客であり、高速道路利用時に「One more 観光リコメンド（提案）」をプッシュ配信するのが効果的であるとの報告がありました。配信された情報を、千歳ICや新千歳空港ICを出た後にチェックし、周辺観光地へ誘導することが可能になります。

実現に向けての課題として、新千歳空港自体が余った時間を潰すことが可能な施設となっていること、最終日以外の「One more 観光」の可能性検討、リアルタイムによる旅行時間の更新と情報提供、そして、観光アプリと道路維持管理情報の連携といった点が挙げられました。

■第2回講演会 平成26年11月26日

第9次交通安全基本計画（計画期間：平成23年度～平成27年度）では、平成27年までに24時間死者数を3,000人以下とし、世界一安全な道路交通を実現する、といった目標が掲げられています。このような背景のもと、国土交通省では、幹線道路における事故対策として、事故危険箇所や事故ゼロプランにおける事故危険区間を対象に、重点的に対策を実施しています。また、生活道路では、あんしん歩行エリアを指定し、面的な対策を実施しています。

本講演会は、近年の幹線道路や生活道路における交通事故対策に対する取り組み・研究事例を紹介いただいたものです。また、交差点等における事故対策等を検討する上で多くの技術者が参照している「平面交差の計画と設計 -基礎編-」の改訂についてもご紹介いただきました。

本講演会は、交通工学会の後援で開催したものです。

1) 進化する交通事故対策と専門技術者の新たな役割

千葉工業大学工学部建築都市環境学科教授の赤羽弘和様に、交通事故対策の動向、新たな取り組み事例等についてご紹介いただきました。

効果的な交通安全対策を実施していくためには、成功例と失敗例の蓄積と共有が必要であり、きちんとした事後評価により、効果的な事前評価システムの構築につながります。そのような共有型のPDCAサイクルにより、道路の計画と設計にフィードバックしていくことが望まれます。

近年、死亡事故件数は減少傾向にありますが、生活道路における死亡事故割合は増加しています。このため、ゾーン30が推進されています。ゾーン30は一定エリア内の速度規制を一律に30km/hとするとともに、多様な速度抑制対策により通過交通を抑制するものです。しかしながら、地区住民間の合意形成、通り抜けるドライバーの理解、といった課題があり、市民参加型の交通安全対策により、市民間の利害調整の円滑化を図るべきとの示唆をいただきました。さらに、市民参加型の交通安全対策の実例として、鎌ヶ谷市と市川市における取り組みを紹介していただきました。

また、交通安全における専門技術者の新たな役割に関しては、交通工学会が交通安全の専門家4名（学識経験者、建設コンサルタント等の技術者で構成）を監査員として派遣し実施した、道路安全監査についてご紹介いただきました。

2) 「平面交差の計画と設計 -基礎編-」の改訂方針

東京大学生産技術研究所教授の大口敬様には、交通工学会が進めている「平面交差の計画と設計 -基礎編-」の改訂についてご紹介いただきました。

本書の改訂は、「平面交差の計画と設計 -基礎編-」と「交通信号の手引」の2書を融合・分冊するとともに、ラウンドアバウト（環状交差点）や交差点における自転車処理等についても記載していく方針であるとのことでした。現在は、改訂項目の洗い出しと全体目次を検討し、原稿案を作成中とのことでした。



図 第2回講演会の様子

VI. 土質基礎研究委員会

■ 土質基礎に関する「維持・管理・点検」技術報告会 ■

土木構造物の経年劣化を原因とする事故などの発生から、維持管理や長寿命化の技術開発が求められています。北海道のような寒冷地では、凍結融解や凍上などにより土木構造物の劣化が速まることも想定されます。土質基礎研究委員会では、土質基礎に関する「維持・管理・点検」をテーマとして、第13回技術報告会を平成27年2月13日に北大学術交流会館にて開催しました。

本報告会では、日特建設(株)の宇次原雅之氏による基調講演、および各社・各機関における最近の事例、研究成果など下記4編の技術報告が行われ、活発な議論がありました。

《プログラム》

基調講演

「斜面の維持・管理・点検に関する最近の話題」

宇次原雅之（日特建設(株)技術本部 知財・戦略部長）

技術報告

「道央自動車道 江部乙地区のり面変状対策について」

山本陽一（東日本高速道路(株)）

「盛土防災点検の概要」

日下田貴男、対馬一男（北武コンサルタント(株)）

「繰返し注入を用いた地山補強土工法「ロータスアンカー工法」の耐震補強への適用例」

高橋徳、別府正顕、甲斐原雅良（ライト工業（株））

「『積雪寒冷地における斜面点検』のコツ（参考資料）」

日下部祐基、倉橋稔幸（(独)土木研究所 寒地土木研究所）

山真典、宮田善郁（(株)ドーコン）



宇次原雅之氏による基調講演



技術報告会開催状況

■ 地盤改良セミナー 土を固めるセメント系固化材 ■

土質基礎研究委員会では、(独)土木研究所 寒地土木研究所、(社)セメント協会との共催で、『地盤改良セミナー 土を固めるセメント系固化材』を平成26年10月9日に帯広市とかちプラザにて開催しました。

本報告会では、(株)高速道路総合技術研究所 常務執行役員 吉村雅宏氏による特別講演を含む下記4講演が行われました。

《プログラム》

1. 土を固めるセメント系固化材

吉田雅彦 ((一社)セメント協会 セメント系固化材普及専門委員会 委員)

<特別講演>

高速道路におけるセメント改良の現状と今後

吉村雅宏 ((株)高速道路総合技術研究所 常務執行役員)

2. セメントによる泥炭地盤の固結工法について

林 宏親 ((独)土木研究所 寒地土木研究所

寒地基礎技術研究グループ寒地地盤チーム主任研究員)

3. 北海道で実施された中層混合処理工法について

橋本 聖 ((独)土木研究所 寒地土木研究所

寒地基礎技術研究グループ寒地地盤チーム研究員)



セミナー風景

Ⅶ. 建設マネジメント研究委員会

§ 1. 「地方における建設業の人材確保・育成の現状と実践に関するシンポジウム」の概要

本委員会が、昨年度土木学会建設マネジメント委員会との共催で実施した地域シンポジウムの概要について紹介します。

1. 開催趣旨、参加者、プログラム

本シンポジウムは、喫緊の課題となっている建設業における人材確保・育成に関する問題を取り上げ、北海道における現状と課題等について議論するとともに、国土交通省、厚生労働省等の政策を踏まえ、どのように対応し、実践していくべきかについて、参加者相互で考えることを目的に実施した。

- 1) 主 催：公益社団法人 土木学会 建設マネジメント委員会
北海道土木技術会 建設マネジメント研究委員会
- 2) 後 援：北海道開発局，北海道，北海道建設業協会，北海道建設業信用保証株式会社
札幌商工会議所，日本技術士会北海道支部
- 3) 日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水） 13：30～17：00
- 4) 場 所：北海道大学工学部オープンホール（札幌市北区北13条西8丁目）
- 5) プログラム 13:30～17:00

①開会挨拶・土木学会建設マネジメント委員会活動報告

土木学会建設マネジメント委員会委員長 福本勝司

②基調講演「建設業における人材問題の背景」

北海道大学 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター
特任教授 小磯修二

③事例報告

- ・地方における人材確保の現状と課題 日東建設(株)代表取締役社長 久保 元
- ・国土交通省・建設業振興基金の取組 建設業振興基金構造改善センター 長谷川周夫
- ・厚生労働省の政策 厚生労働省職業安定局 上田国土

④パネルディスカッション

[テーマ] 地方における人材確保・育成の現状と実践

※コーディネーター 高宮則夫（建設マネジメント研究委員会民間活力推進小委員長）

※パネリスト 飯田百合亜（岩田地崎建設(株) 技術部主任）

（五十音順） 井上聖一（札幌工業高等学校 土木科教諭）

久保 元（日東建設(株) 代表取締役社長）

長谷川周夫（建設業振興基金構造改善センター 研究部長）

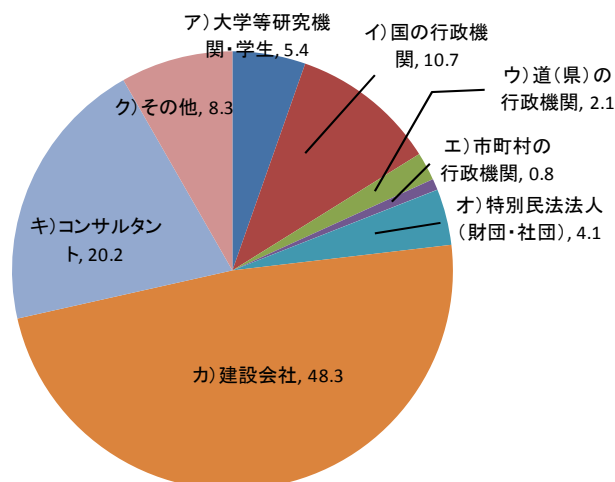
上田国土（厚生労働省職業安定局建設・港湾対策室長）

松尾優子（苫小牧工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授）

⑤ 閉会挨拶 北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会 委員長 高野伸栄

6) 参加人数 242名

職業等	%	人数
ア)大学等研究機関・学生	5.4	13
イ)国の行政機関	10.7	26
ウ)道(県)の行政機関	2.1	5
エ)市町村の行政機関	0.8	2
オ)特別民法人(財団・社団)	4.1	10
カ)建設会社	48.3	117
キ)コンサルタント	20.2	49
ク)その他	8.3	20
人数計	100.0%	242



2. 開催概要

1) 基調講演

演題 — 建設業における人材問題の背景 —

〔北海道大学公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター特任教授 小磯 修二〕
「建設業の人材不足問題」不安定な公共投資政策、財政政策と担い手不足問題、建設業のイメージ（自動車 55、食品 46、建設 7）、産業実態への理解不足
「建設業に対する考察・研究」建設業の文献、批判的論調か情緒的賛美、無駄な公共事業論へのすり替え、受注産業、屋外生産、重層下請構造、統合産業 その他



2) 事例報告

① 地方における人材確保の現状と課題

日東建設(株)代表取締役社長 久保 元

② 国土交通省・建設業振興基金の取組み

建設業復興基金構造改善センター 長谷川 周夫

③ 厚生労働省の政策

厚生労働省職業安定局 上田 国土



3) パネルディスカッション

「地方における人材確保・育成の現状と実践」

「論点1」北海道における人材不足の要因について

「論点2」北海道の建設業の人材不足への対策にどう取り組むか（女性の参加含め）



§ 2. 最近の地域活性化活動の概要報告（地域の建設二世会との意見交換活動）

① 室蘭経営研究会との意見交換会

日時：平成26年6月16日

場所：室蘭建設業協会

参加：25名

研究会：建設業の魅力を伝えよう～地域イベント参加による広報事業について

意見交換：建設業への従業者を増やすために必要な企業努力等について



② 旭川建設業協会二世会との意見交換会

日時：平成27年5月27日

場所：旭川グランドホテル

参加：22名

二世会：人材確保について、会員企業ソフトランディング事例紹介、人材募集イメージDVD等

意見交換：若手技能者及び技術者の育成、その他について

北海道土木技術会 歴代会長・副会長・幹事長名簿

年 度	会 長	副 会 長		幹 事 長
昭和 29～32 年度	齋藤 静脩			
昭和 33～38 年度	真井 耕象	小崎 弘郎		古谷 浩三
昭和 39～48 年度	高橋敏五郎	伊福部宗夫	古谷 浩三	河野 文弘
昭和 49～52 年度	横道 英雄	古谷 浩三	林 正道	河野 文弘
昭和 53～59 年度	町田 利武	尾崎 晃	長縄 高雄	高橋 毅
昭和 60～61 年度	尾崎 晃	長縄 高雄	渡辺 健	久保 宏
昭和 62～63 年度	尾崎 晃	長縄 高雄	渡辺 健	太田 利隆
平成 元 年度	長縄 高雄	菅原 照雄	久保 宏	森 康夫
平成 2 年度	長縄 高雄	菅原 照雄	高橋 陽一	森 康夫
平成 3 年度	菅原 照雄	渡辺 健	西本 藤彦	森 康夫
平成 4 年度	菅原 照雄	渡辺 健	太田 利隆	森 康夫
平成 5 年度	渡辺 健	渡辺 昇	清崎 晶雄	能登 繁幸
平成 6 年度	渡辺 健	渡辺 昇	小山田欣裕	能登 繁幸
平成 7 年度	渡辺 昇	松尾 徹郎	橋本 識秀	能登 繁幸
平成 8 年度	渡辺 昇	松尾 徹郎	青木 正夫	能登 繁幸
平成 9 年度	松尾 徹郎	星 清	藤田 嘉夫	堺 孝司
平成 10 年度	松尾 徹郎	斉藤 智徳	藤田 嘉夫	石本 敬志
平成 11 年度	加来 照俊	高橋 陽一	能登 繁幸	高木 秀貴
平成 12 年度	加来 照俊	高橋 陽一	阿部 芳昭	高木 秀貴
平成 13 年度	高橋 陽一	土岐 祥介	斉藤 智徳	鈴木 哲也
平成 14 年度	高橋 陽一	土岐 祥介	斉藤 智徳	鈴木 哲也
平成 15 年度	土岐 祥介	西本 藤彦	斉藤 智徳	西川 純一
平成 16 年度	土岐 祥介	西本 藤彦	斉藤 智徳	西川 純一
平成 17 年度	西本 藤彦	角田與史雄	斉藤 智徳	西川 純一
平成 18 年度	西本 藤彦	角田與史雄	高木 秀貴	西川 純一
平成 19 年度	角田與史雄	能登 繁幸	高木 秀貴	熊谷 守晃
平成 20 年度	角田與史雄	能登 繁幸	恒松 浩	高橋 守人
平成 21 年度	能登 繁幸	佐藤 馨一	恒松 浩	高橋 守人
平成 22 年度	能登 繁幸	佐藤 馨一	川村 和幸	高橋 守人
平成 23 年度	佐藤 馨一	阿部 芳昭	川村 和幸	高橋 守人
平成 24 年度	佐藤 馨一	阿部 芳昭	柳屋 圭吾	西本 聡
平成 25 年度	阿部 芳昭	三浦 清一	柳屋 圭吾	西本 聡
平成 26 年度	阿部 芳昭	三浦 清一	池田 憲二	西本 聡
平成 27 年度	三浦 清一	川村 和幸	池田 憲二	西本 聡

北海道土木技術会規約

昭和33年 9月17日 施行
昭和40年 3月 1日 一部改正
昭和61年10月27日 改正
平成 7年 7月 5日 一部改正
平成20年 8月26日 一部改正

第 1 章 総 則

- 第1条 本会は北海道土木技術会と称し札幌市に事務局をおく。
- 第2条 本会は北海道における土木事業ならびに土木技術の進展を図ることを目的とし、次の事業を行う。
- 1 重要な問題についての共同調査、研究、審議
 - 2 講演会等の開催による技術の向上および普及
 - 3 その他本会の目的を達成するために必要なこと
- 第3条 本会の会員は原則として、北海道在住で本会の趣旨に賛同した者とする。

第 2 章 役 員 お よ び 会 議

- 第4条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長 1名 副会長 2名 幹事長 1名 幹事 若干名 会計監査 2名
研究委員会の委員長
 - 2 役員の任期は、1年とし再任は妨げない。
- 第5条 会長は本会を代表し会務を総括する。副会長は会長を補佐しその任務を代行する。幹事長および幹事は会長の指示を受けて会務を処理する。
- 第6条 幹事長、幹事、会計監査および事務局主事は会長が委嘱する。
- 第7条 本会の運営に関し、助言を求めるため会長の委嘱により顧問をおくことができる。
- 第8条 役員会は年1回以上開き会長が招集する。
- 第9条 役員会は次の事項を議決する。
- 1 事業および決算
 - 2 会長、副会長の選出
 - 3 規約の変更
 - 4 研究委員会の設置または廃止
 - 5 その他本会に関する重要な事項
- 第10条 幹事会は幹事長および幹事によって構成し、幹事長が必要と認めたとき随時これを開く。

第 3 章 研 究 委 員 会

- 第11条 本会には第2条の目的を達成するため研究委員会をおく。
- 第12条 研究委員会は、3名以上の会員の要請があるとき役員会の審議を経て設ける。
- 第13条 研究委員会の委員長は、会長が委嘱するものとし、その運営は別に定めるところによる。
- 第14条 会員は、研究委員長の委嘱を受けて委員会活動に参加することができる。

第 4 章 会 則 お よ び 付 則

- 第15条 本会の事業年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。
- 第16条 本会の運営に要する経費は、賛助金、その他をもってあてる。
- 第17条 この規約は平成20年8月26日から実施する。

■ ロゴマークの活用

平成 23 年度に北海道土木技術会のロゴマークができました。デザインは、北海道土木技術会の英語表記 (Association for Civil Engineering Technology of Hokkaido) の頭文字の CETH を組み合わせたロゴタイプとし、H の白抜き部分を区画線に見立て道路をイメージしています。また、7 研究委員会を北斗七星に見立て、「北」をイメージしたものです。各研究委員会が実施するイベントなどの資料にお使いいただき、北海道土木技術会を PR していただければ幸いです。



■ 鋼道路橋研究委員会のロゴマーク

鋼道路橋研究委員会は、2015 年 2 月に設立 50 周年を迎え、50 周年記念ロゴマークを作成し、記念事業の配布資料などに添付し広くアピールに努めました。せっかく記念で作成したロゴマークなので、一部を差し替えて今後も活用していくことになりました。

ロゴマーク